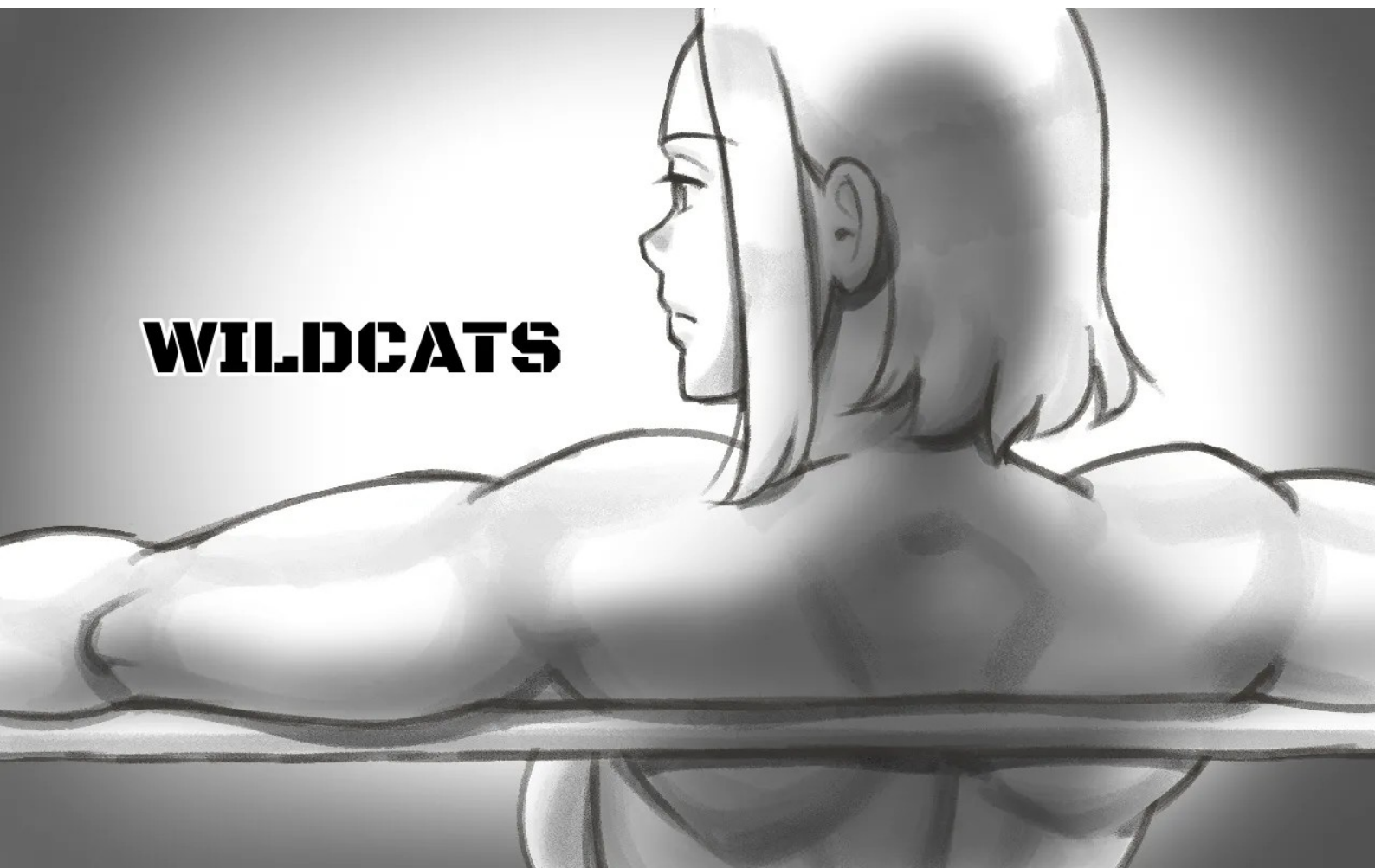


WILDCATS





WARNING!

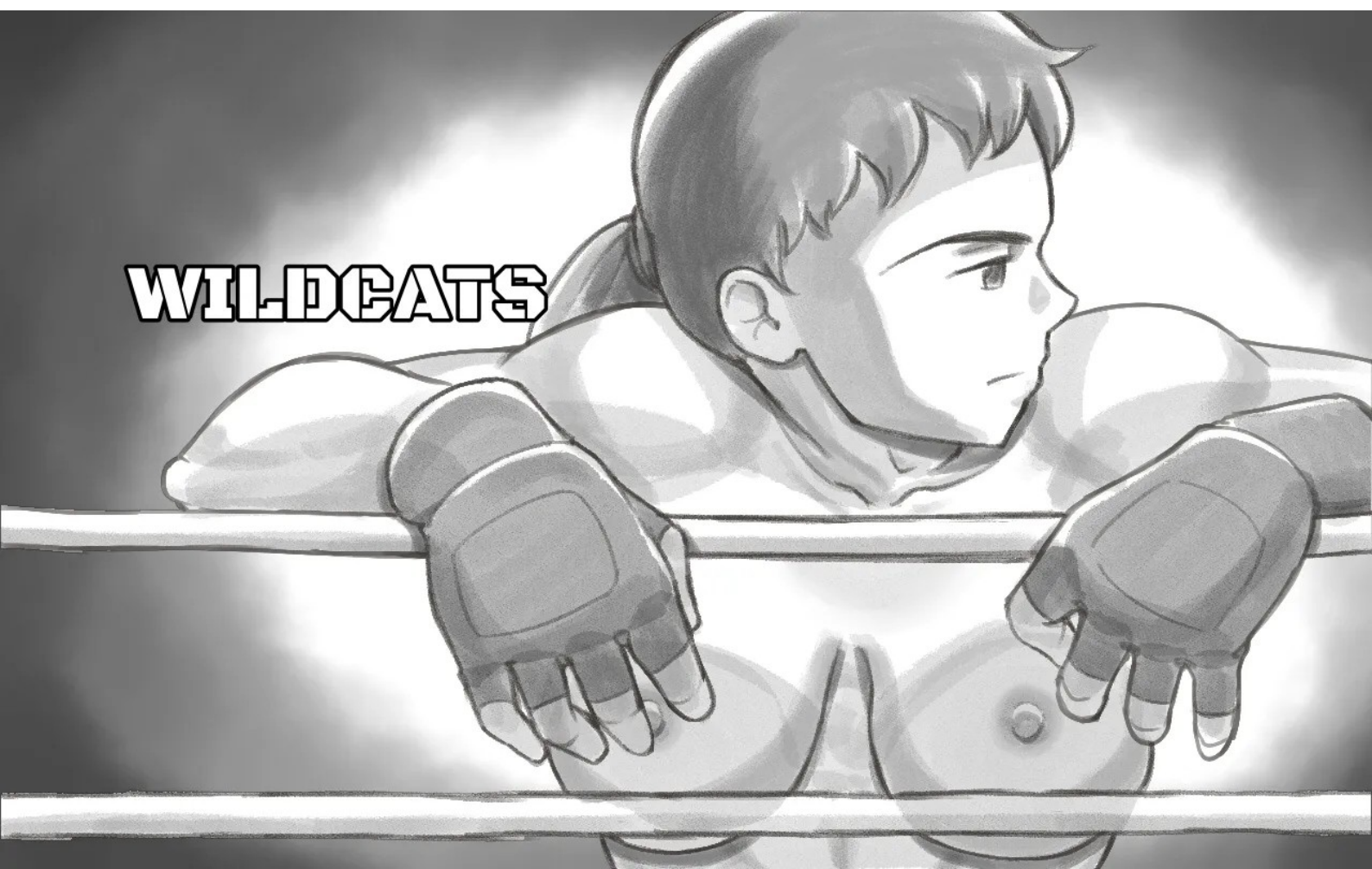
このコンテンツは成人向けです。
未成年の方はご覧になれません。

また暴力的な表現がございますので
閲覧に際してはご注意ください。

物語に登場する人物・場所・事象等は
すべて架空のものです。

使用される技や打撃表現は
現実とは全く異なっています。
危険ですので
くれぐれも真似をしないで下さい。

WILDCATS





『ワイルドキャッツ』

WILDCATS

それは非合法のキャットファイト。

女同士が闘い、犯し、イカせ合う。

ポルノショーでありながら、それは危険なまでに過激であった。

『もっともリアルファイトに近いキャットファイト』

それがワイルドキャッツ。

この物語では2人の女について語ろう…

ななお きすか

七尾 輝寿華

身長 169cm 体重 59kg フライ級



オールジャパン女子総合格闘技選手権で3度優勝

男女対戦ありの無差別級ミックスファイトでミドル級の男子格闘家をKOすること2度
27戦25勝2引き分け KO勝ち20。『現役格闘家最強』の噂も高い女子選手のホープ



七尾 輝寿華は 奇跡の格闘家として
内外から注目されていた。

体重差をものともしないパウンドの強さ、
驚異的な打たれ強さ、並外れた格闘センス…

「現役では無敵」という噂も名高い。

……しかし、その強さが仇となり
あだ
思わぬ落とし穴へ嵌まったのだった…

＜——さあ、今夜のチャリティーショーに登場するのは
『ジェット・キスカ』こと七尾 輝寿華選手と
プロボクシング界No.2の問題児『マッドブル』ジェイ・ラモック。
角田さん、エキシビジョン・マッチとはいえ、男女で体重差が40キロ
というのは少し心配なんですがね＞



＜そうっすね、試合っていうのは
何が起こるか分かんないし、
マッドブルは油断しないほうが
いいよね＞
＜あおう、キスカ選手じゃなく？＞

<やはり一方的！ この体格、この筋肉、どう見ても
マッドブル有利過ぎ！ キスカは打たれるしかない>
<上手いっすねえ、キスカ選手、防御が。パウンド負け
してないし>

<そうなんですか？>

<決定的なものもらって
ないでしょ。ちょっと

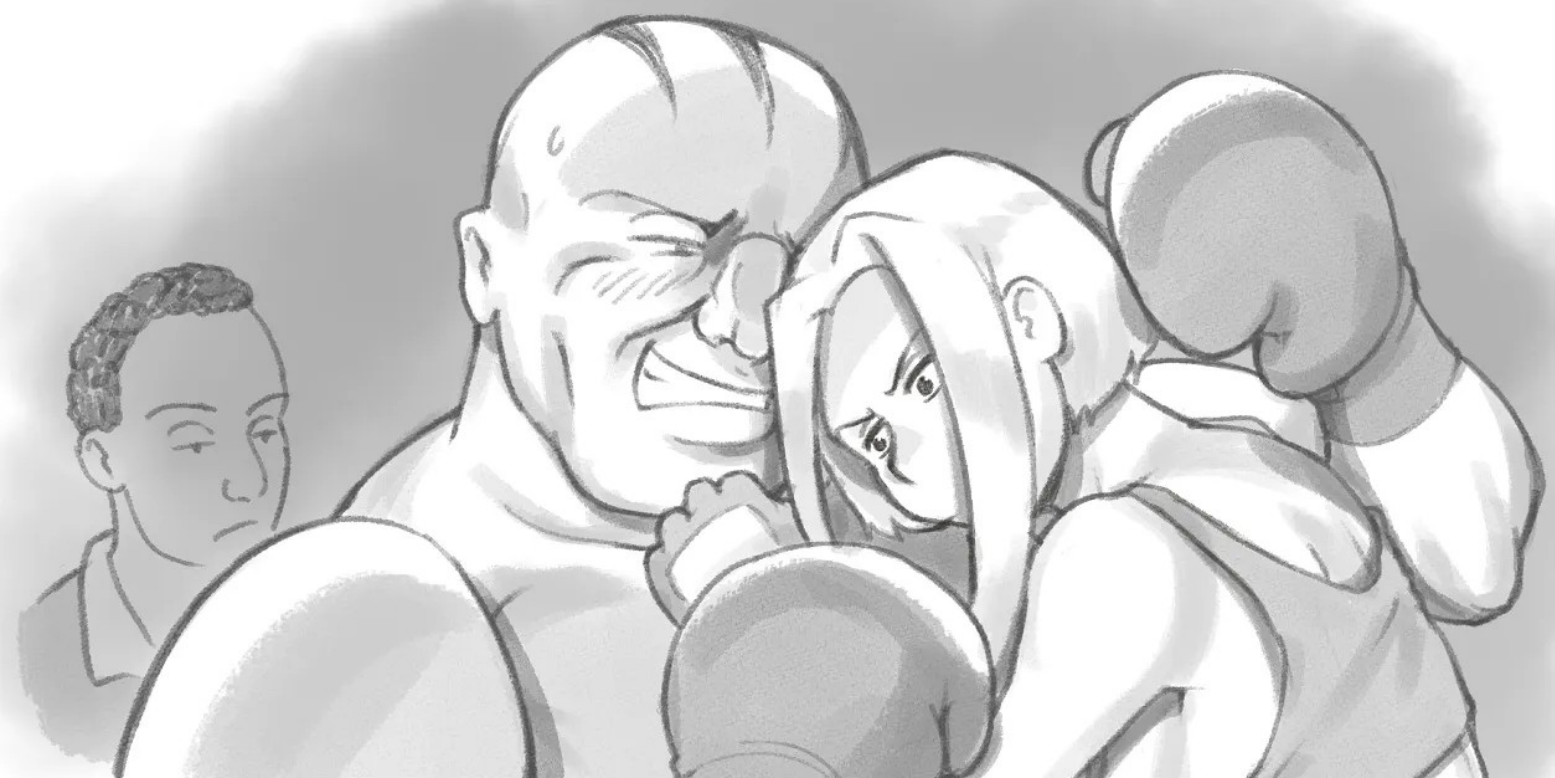
信じらんないよね、
俺らからすれば。

普通ロープ際ですよ、
この体重なら。

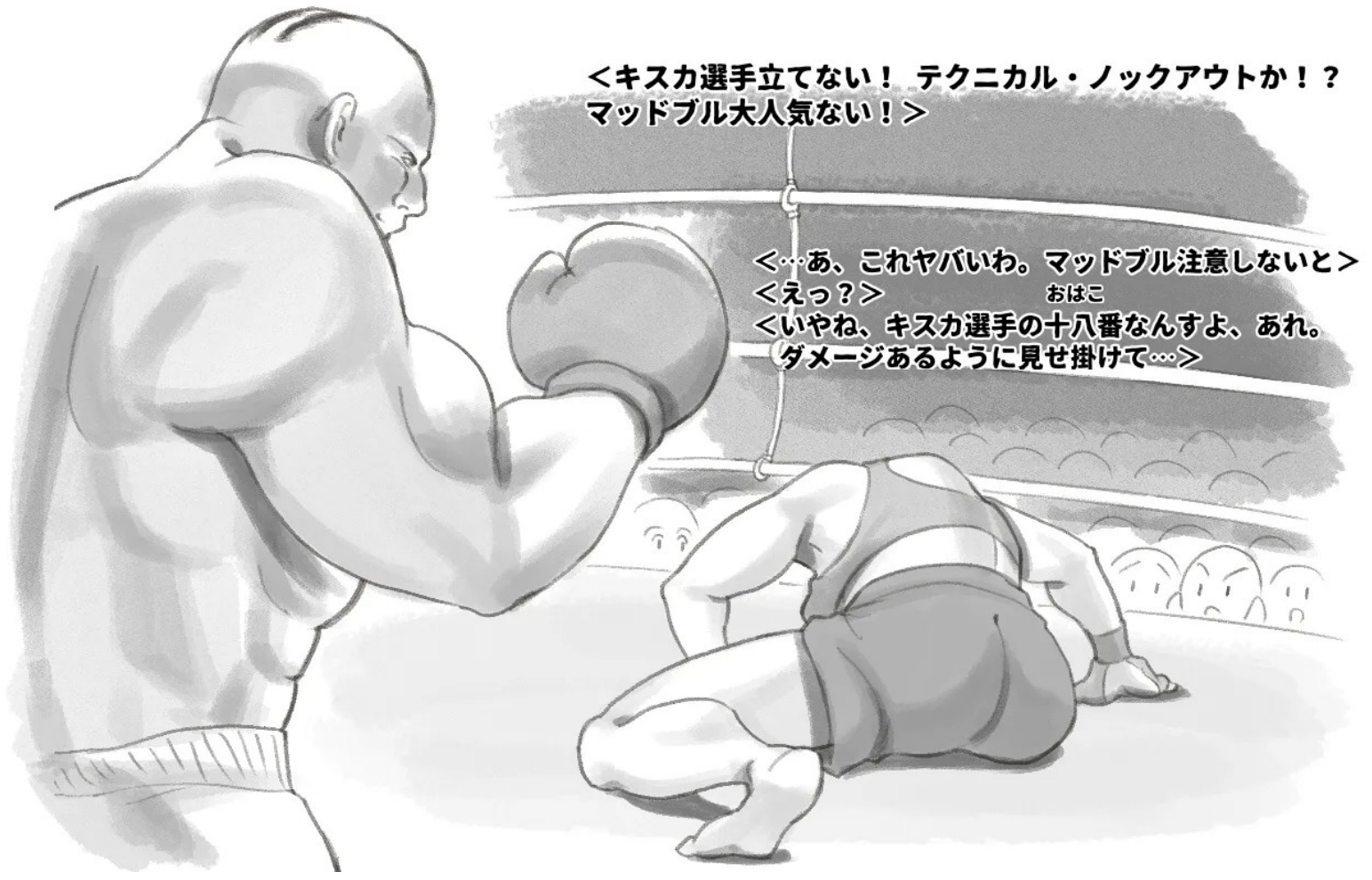
連打されて
終わり♪



「hehe… ようビッチ、テメエんところに可愛い妹がいるなあ。
今度俺がかわいがってやろうか？ おまえと一緒によ。
逆らわない方が身の為だぜエ…」

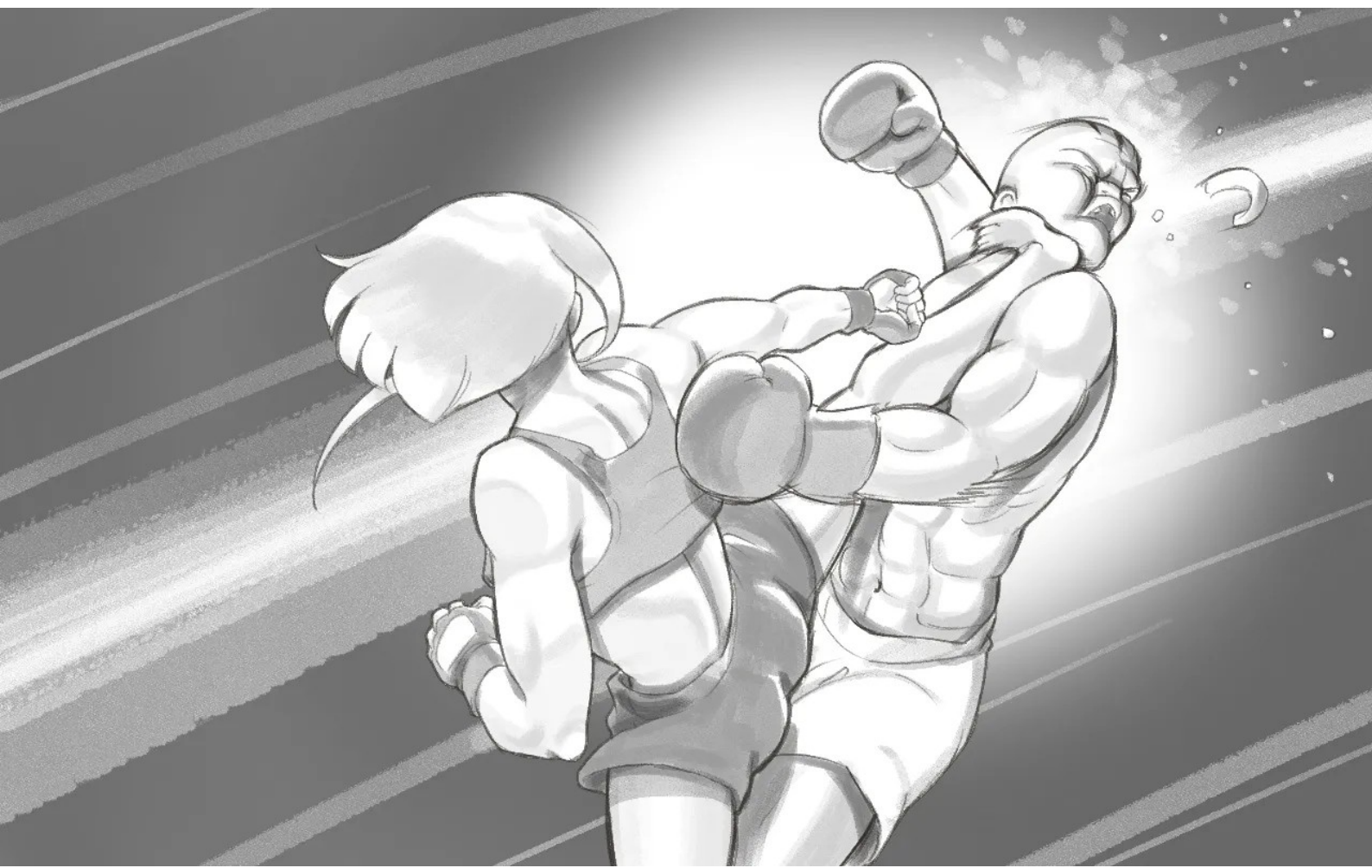






<キスカ選手立てない！ テクニカル・ノックアウトか！？
マッドブル大人気ない！>

<…あ、これヤバいわ。マッドブル注意しないと>
<えっ？> おほこ
<いやね、キスカ選手の十八番なんすよ、あれ。
ダメージあるように見せ掛けて…>



<カウンター————ツ!!!!>

<コレなんですよ！
カウンターで仕留める>





<レフェリーたまらずストップ！ 試合終了～～～！
信じられません！ 102キロの選手をタコ殴りッ
現役最強の看板はダテではなかった～！

…いやあ角田さん、今夜は凄いモノを観ましたね>

<なんか怒らせるような事言ったんですかねえ、
マッドブル。いや、良いもの観せてもらいました。
血が滾りますね！>

たぎ



マッドブルの言動は不穏だった。

…何かがおかしい。

所属事務所へ出向いた輝寿華は
事の次第を問い質した。

そこで聞かされた話は
まさに寝耳に水だった ——

「…おい、アイツ変な事言ってたな。」

アレは一体なに？」

「そんな場合かよ！ あれほど
適当にあしらって負けろと
言ったはずだぞ。」

それをオマエ、再起不能に
しやがって。コミッション
がカンカンだ！

分かってんのか、ランキング
2位を殺っちまった意味が…
奴が年間で何千万ドル稼ぐ
と思ってんだ」

「そんな事は関係ない。
あのイカれた野郎が妹を
狙ってた。」

…あんた、まさかそれを
知ってて…」

「へ、物分かりの
悪い姉ちゃんだな。」

いくらアンタが騒がれてる
からって、男が本気で女を
相手にするわけねーだろ！
ましてや世界ランカーだぜ。
せいぜい腰振って奴のナニを

舐めてやりゃあ、
こっちは丸儲け

だってのによ」

「…つくづく呆れた
腰抜けだな」

「なんとでも言え。」

こっちは金を稼ぐのに
忙しいんだ。

…そ、そうだ、今から
詫び入れて、妹と一緒に
営業すりゃあ…」

——ゲシッ！！

「はびいいいい！！」





「あの試合は八百長——」

辞めた輝寿華に対し
所属事務所は報復として
彼女が勝手に仕組んだとマスコミへ
嘘のネタを流した。

"女が男に素手で勝てるわけがない——"

流されやすい視聴者のバッシングで
輝寿華はイカサマファイターの烙印を押され
格闘界を事実上追放された

こうして 不世出の女格闘家は去っていった…
表向きは。

暇な奴だな…」

「——野郎、
ぶっ殺せ！」

…ポン、ポン、ポン。

「——お見事です、
ジェット・キスカさん」

「…あんたが
けしかけた
のか」
「いえいえ、
私は敵では
ありません。
場所はほのめ
かしました
がね」

「我々はあなたの才能を借しんでいます」

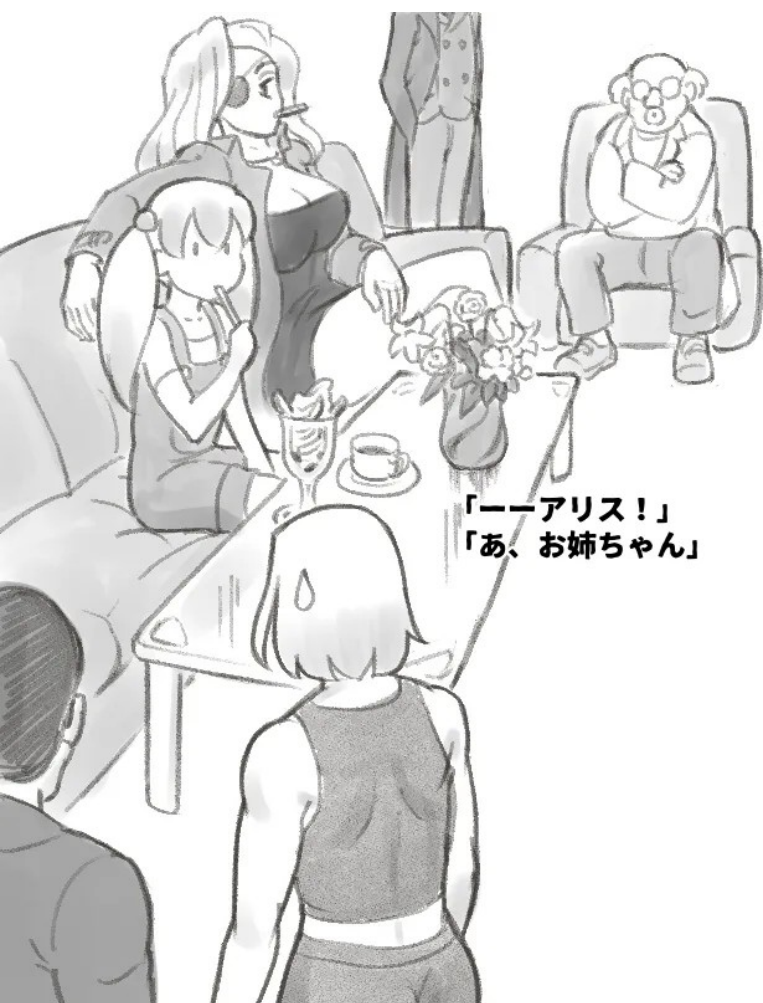
「『我々』？」

「お乗り下さい。ビジネスの話をしましょう。
あなたの妹さんもお預かりしています」

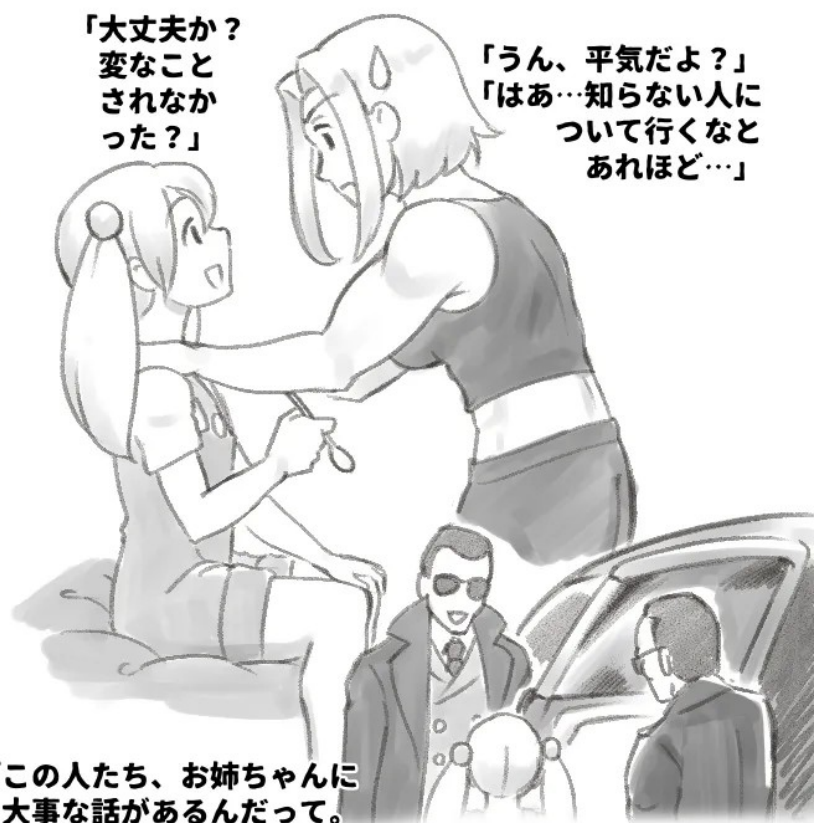
「なに!？」

「ご心配なく。危害は一切加えておりません。
——さあ…」





「——アリス！」
「あ、お姉ちゃん」



「大丈夫か？
変なこと
されなか
った？」

「うん、平気だよ？」
「はあ…知らない人に
ついて行くなと
あれほど…」

「この人たち、お姉ちゃんに
大事な話があるんだって。
びじねすだってゆってた」
「——ビジネス？」

「我々のアジト『CAT's Den 猫の穴』へ
ようこそ、ミス・ナナオ。
我々は非合法組織『ピンクパンサー』。
色々と法律では禁止されているビジネスに
手を染めていてな。
とはいえ、麻薬のような非人道的なブツは
扱わない。あくまで顧客の
ニーズを満たすサービスを
心掛けている」

★マダムX

「今日は君に『WILDCATS』の参戦へ勧誘したい」
「『ワイルドキャッツ』…？」
「君の得意な殴りっこだよ、ミス・ナナオ。
ただしSEXもありのキャットファイトだ」
「わたしにポルノへ出ると？」
「違う。そう見えるというだけだ。
あくまでもリアルファイトをお願いしたい。
そう、ミスター・マッドブルをのしたように。
我々は君の才能を高く買っている」

★Dr.メガネ



★シマ



★ゴトー

「このDr.メガネが説明しよう。
『ワイルドキャッツ』はただの
キャットファイトじゃない。
裸にはなるが、格闘技の
スキルを持つ選手を戦わせ
るんじゃ。なよなよした
ポルノ女優は必要ない」

「出場選手はオープン
フィンガーグローブ
だけを身につける。
ただし、性器を
保護するため
股間に特殊なシールを
貼り付ける」

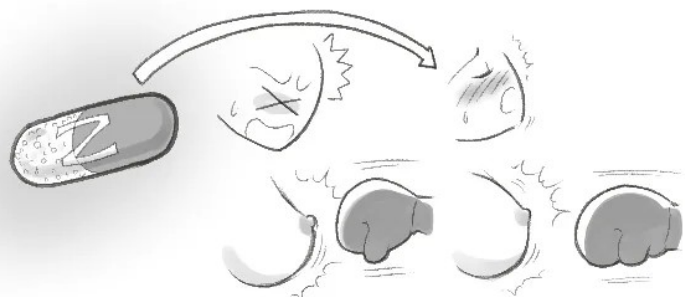
「ルールは3つ。
①目を突かない
②噛みつき禁止
③殺さない
これだけじゃ。
骨折もグラウンド
状態のパウンドも
背中への攻撃も
許される」



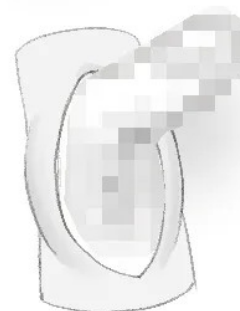
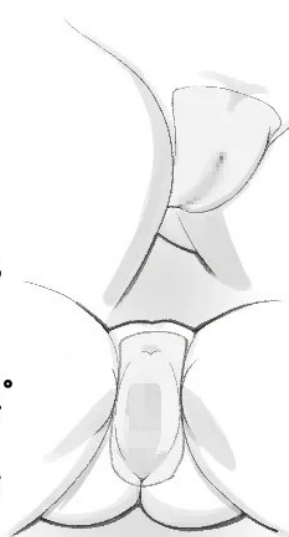
「戦闘スタイルは
なんでもいい。
空手でも柔術でも
中国拳法やマーシャル
アーツでも。
あんたならこれが
どれほど過激か
分かるじゃろ？」

「——ただしハンデが
あってな。
一応キャットファイト
なので出場者は全員
わしが開発したZ媚薬を
飲んでもらう。
こいつは性感が異常に
高まる薬だが、副作用も
中毒性もない。」

そして、ここが肝心じゃ。
勝利は『相手を絶頂させ
戦闘不能にすること』
したがって、ただ殴って
ノックアウトさせても
勝ったとはみなされない」



「まれにクリトリスが
異常発達し、クリペニスが
生えることがある。
こいつは射精も出来る。
このペニスで相手を犯し
子宮へ中出し絶頂で勝つのが
最も顧客を喜ばせるんじゃ」



「ワイルドキャッツに出場するのは

不遇を困っている連中じゃ。
金欲しさが一番の動機だが、
実力を評価されず
不満な者や、
事情があって
表舞台に立て
られない者、
単純に暴れたい者、
色々ある」



「報酬は出場するだけで
勝ち負けに関係なく10万ドル。
勝った方はさらに100万ドルを
手にする。もちろん税抜きで。
表の世界に比べれば微々たる
もんじゃがな」

「あんたたちのファイトは
わしが開発したコピー不可能な
デバイスに動画を入れて
1枚1万ドルで売却される。
1000枚だけの限定生産だ。」

こいつを欲しがるのは金持ちの
好事家さ。奴らには小遣いで
買えるお楽しみってことだ。

ファイトの内容が良ければ
プレミア価格が付いて裏世界で
取引される。1枚で1000万ドルの
値が付いたこともあるな」

「あんたの対戦相手は

かんのぞき ゆり

神乃崎 百合

若手では実力No.1の
ホープじゃ。今までに
5回勝っている」



「ま、せいぜい頑張る
ことだな。良い試合を
期待しておるぞ」

断る権利もあんたにはあるが…
一応うちも非合法組織。
これだけの情報を教えて
おいて、はいそうですかとは
いかない

自作の薄い本を
大量に読ませ 妹に
大人の階段を急上昇
させるぞ！

着せ替えコレクションで
一人コスプレ大会を
開くぞ！

父親と偽って
有栖殿と遊園地で
遊び倒すぞ！

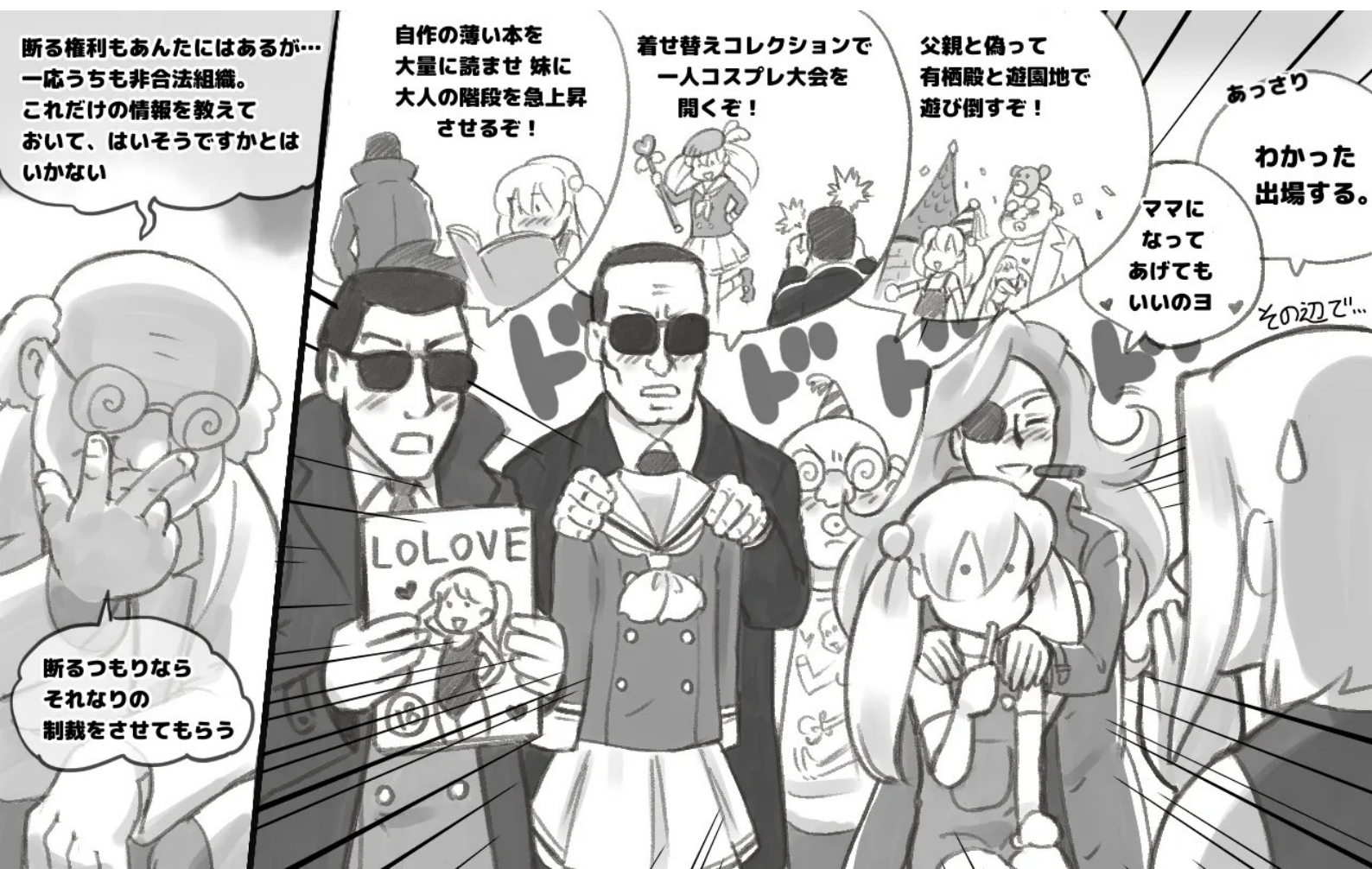
ママに
なって
あげても
いいのヨ

あっさり

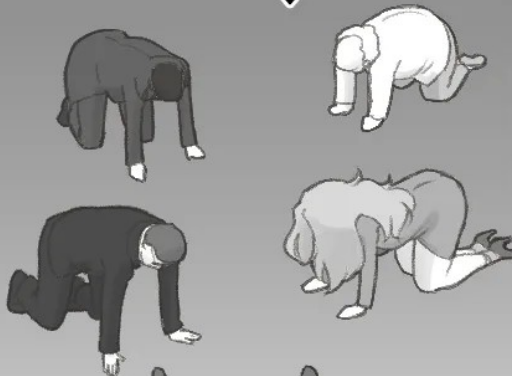
わかった
出場する。

その辺で…

断るつもりなら
それなりの
制裁をさせてもらう



実は断って欲しかった人たち。



あの人たちは
放っておいて

わたくし
バニー村神が
契約内容を
確認させて
いただきます

七尾 輝寿華様には
報酬と引き換えに
ワイルドキャッツへ
3回出場する義務がございます

契約を履行する保証として
有栖様をお預かり…つまり
軟禁させていただきますが

契約終了までの
仮住居をご用意
しました

専用のジムもありますので
トレーニング環境は充実
しております

なお 一度受けた以上
どんな理由があろうと
キャンセルは不可能です

病気だろうとなんだだろうと
必ず試合にはご出場下さい

もし拒否されたり
逃亡された場合は
不本意ですが
手足の一本も折らせて
いただきます

まあ 貴女ならこの業界の
ルールはご承知ですね
ふふふ…。



輝寿華に試合への興味はなかった。

格闘界に嫌気がさしたこともある。

それにワイルドキャッツへ出場すれば
表舞台へ二度と立てなくなるだろう。

…しかし妹を人質に取られ
経済的にも苦しい彼女にとって
他に選択の余地はない。



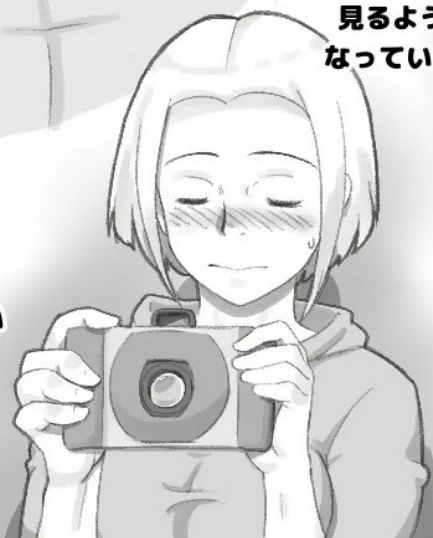
ありす

七尾 有栖

目に入れても痛くない
輝寿華の最愛の実妹。
恋愛その他も特に執着しない
彼女の唯一の弱点。

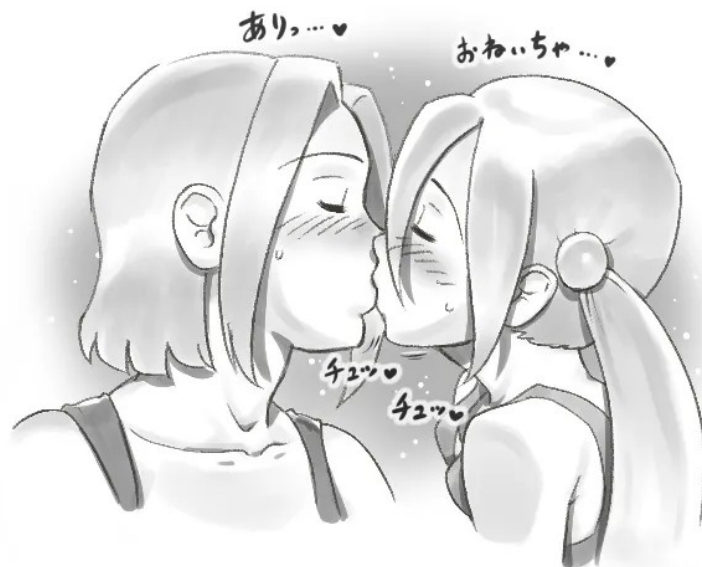
両親が早くに他界してから
妹の面倒は
姉の輝寿華がみてきた。

…いつのまにか
それは
淡い恋心へ変わり
いけないと思いつつ
有栖を女として
見るように
なっていた。



あまつさえ煩悩まで感じ始め
ヌード撮影で辛うじて抑えるのが目下の悩み。

「ごめんね 有栖… こんな事に
巻き込んだじゃって」
「ううん、いいよ。お姉ちゃん
好きだもの…」



「…本当？ こんなお姉ちゃんでも？」
「知ってるよ。お姉ちゃん、わたしで
オナニーしてるの」
「!? あ… ご、ごめん……」
「有栖ね、うれしいな♡
お嫁さんになりたい…お姉ちゃんの♡」
「有栖…♡♡」





相思相愛と知り
輝寿華は思う存分
妹とディープキスを
交わし、舌を味わった。

「お姉ちゃん、おっぱい吸ってもいい？」
「くす… なんだ、赤ちゃんみたいに」
「いいの！ ずっと前からおっぱい吸って
みたかったの♡」
「いいよ… はい♡」

…ところが有栖の吸乳は本格的で
たちまち輝寿華はそのテクに翻弄された…♡





ニユルウ〜♡

カリカリ♡

ニユ♡

ニユルッ♡

プルプル…♡

は♡

は♡

は♡

ビク!

ギョ♡

「おね、ちゃ…♡
そんなとこ…汚いよお♡」
「すすっ…、アリスのなら、ん♡
汚くなんかない…♡
ピンク色できれいだよ…♡」
「いやあ♡ そんなコト
言っちゃダメえ♡」

あ…♡

はあ♡

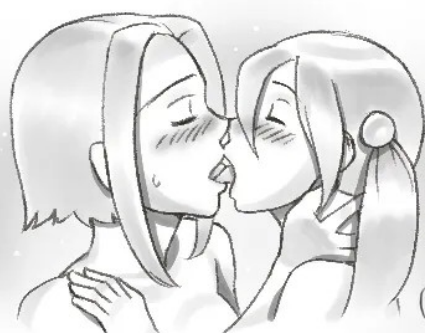
チュバ♡
チュバ♡
チュバ♡

「有栖…♡
わたしの有栖…♡♡♡」

ビシ♡

ビク♡

「あ♡
な、なんかイク…♡
おねえちゃん、アリス怖い…♡
あ、あ〜〜♡♡♡♡」



——— 実は 輝寿華はまだ処女だった。

だが、この日を境にふたりの関係は一変し
姉と妹は互いに処女を捧げ、本当の恋人同士になった…♡♡♡

「…結婚しよ、
お姉ちゃん♡
いつまでも
有栖のものに
なって…♡」
「いいよ♡
お姉ちゃんは
有栖のものだ
……♡♡」
「んん…♡
お姉ちゃん好き♡♡♡」





そして 試合の日が来た —————

ふたりの女格闘家は
向かい合った。

周囲は完全な円形アリーナ
八方に動画用の
カメラが
設置されている。

よほどの事が
ない限り
レフェリーの介入はない。

観客もなく
ゴングもなく
ふたりだけの闘いが
静かに始まった ——

キック系か
...

寝技...
あるいは間接







ボグ





闘っているうちに
輝寿華は違和感を覚えた。

神乃崎はいままでの選手とは違う…
女子にしてはパワーがあるし
驚くほどタフだ。

——— だが、それだけではない。

徐々に己の体の芯が熱くなり
肉体のコントロールが難しくなってゆく。

原因に気づいた時はすでに手遅れだった。









—— 輝寿華は
翻弄された。

痛みを快感へ
変える薬のせいで
肉体の反応が
鈍くなり
技の威力は半減

一方の百合は
薬の副作用を
物ともせず
容赦なく追い詰めた。









こいつ...
まだ墮ちない
のか...♡

グギギ... グ......

はあ♡

はあ♡

い...痛いのに...♡
...気持ちよくて...♡
はあ♡ カ...あ
入いな...♡

はあ♡

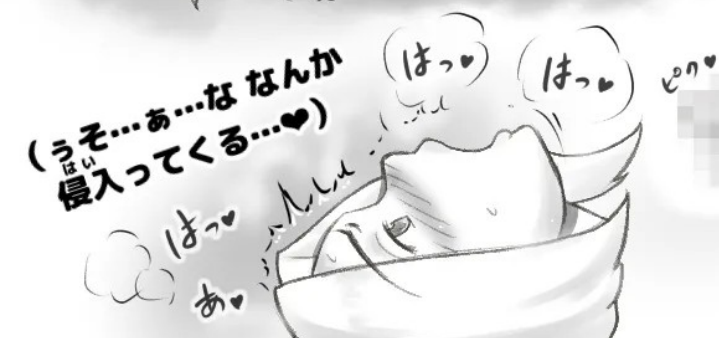
はあ♡

ブル...

ミ...

—— ついに 百合はレズ攻撃を始めた。
フィニッシュへ持ってゆくつもりだ…





輝寿華は陥落した…







輝寿華が気絶した後も
百合は何かに憑かれ
たように腰を
振り続けた。

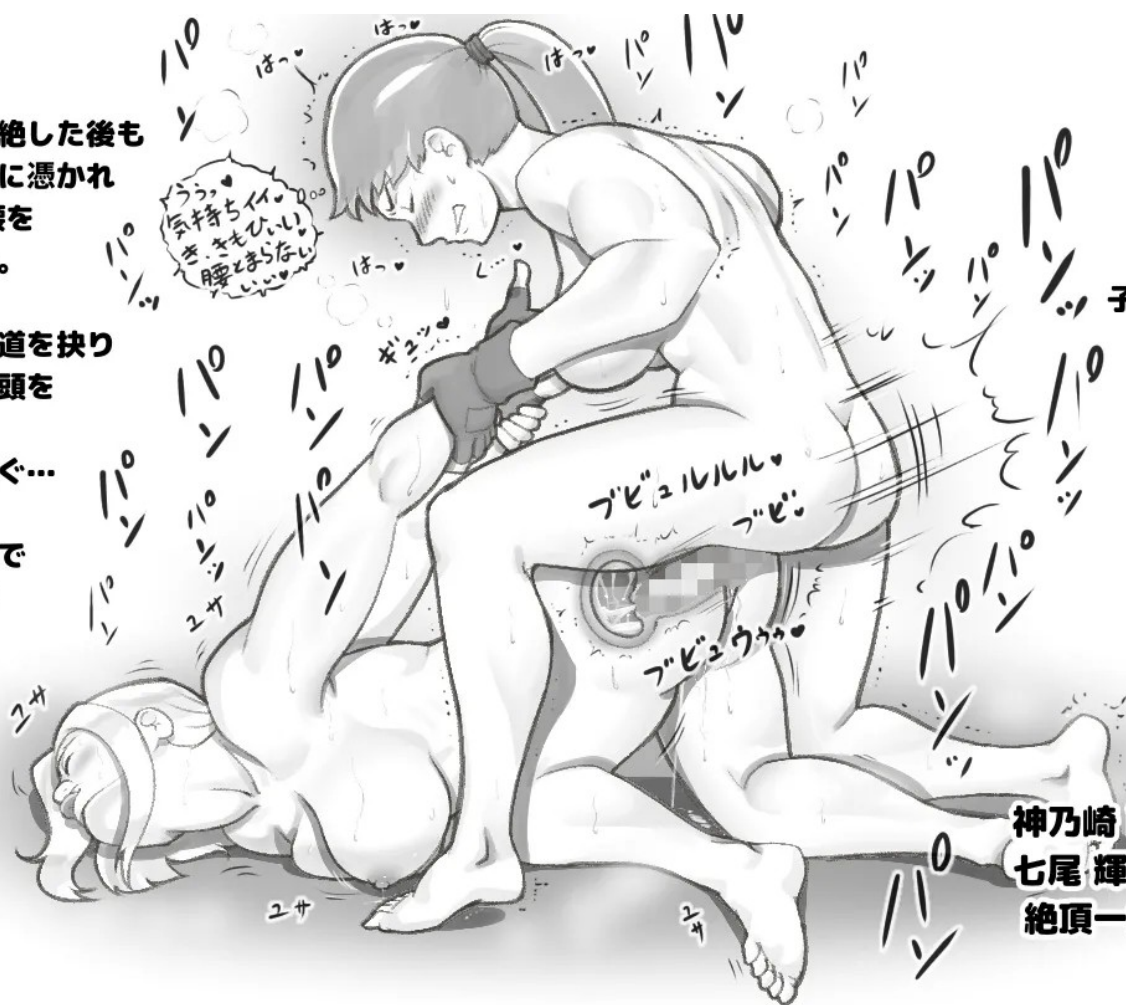
容赦なく膣道を抉り
子宮口へ亀頭を
押しつけ
子種汁を注ぐ...

まるで本気で
妊娠させる
つもり
のように。

輝寿華は
2時間もの間
犯し尽くされ
子宮を白濁液で
満たされた。

もはやそこに
最強戦士の
面影は
なかった...

神乃崎 百合、
七尾 輝寿華に
絶頂一本勝ち ——





「お疲れ様でした。
なかなか見事なファイトでしたよ。
契約は3本なので、まだ試合はあります。
ごゆっくり静養して下さい」

敗北のダメージ醒めやらない輝寿華だったが、
傷を治すと次の日からトレーニングを開始した。

そんな彼女のもとへ
ふらりと女が現れた。

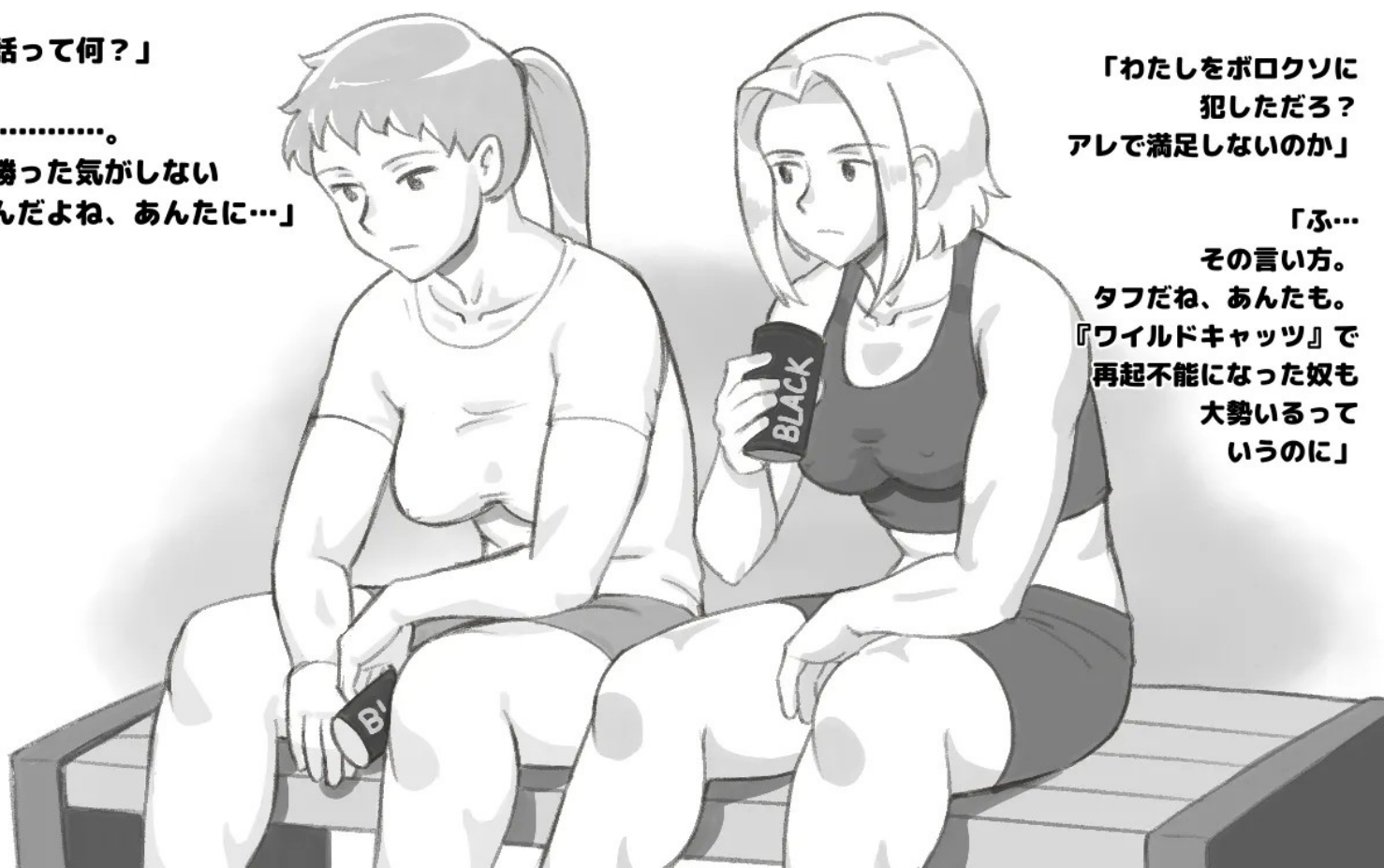
そう、輝寿華をレイプした張本人の
神乃崎 百合が…。

「話って何？」

「……………。
勝った気がしない
んだよね、あんたに…」

「わたしをボロクソに
犯しただろ？
アレで満足しないのか」

「ふ…
その言い方。
タフだね、あんたも。
『ワイルドキャッツ』で
再起不能になった奴も
大勢いるって
いうのに」





「あたしはもともと
AV女優です。
おっぱいの大きさが
売りだったんだ。
『ロケットおっぱいの
百合』って、そこそこ
名も売れてた」

「それがある日
キャットファイト
やることになって
乱闘したわけ。
グーパンありで
もちろん本番も…
だけどケンカの方が
断然興奮しちゃって」

「ナニこれ、すっげー面白え！！」

「あたし、すっかり気に入って
もっと犯りましょうって
言ったんだけど、『おまえ
マジパン入れるから危ない』
ってそれ以上やんなかったの」



「聞いたかったあたしは色々勉強した。
自分で調べてジムにも通って
公式戦でも通用するってお墨付きまで
貰った。
…けど、事務所からはAV女優が
筋肉付けんなって怒られてさ。
なんかシラけてやめちゃった」



「レイプされる覚悟でストリートファイトも
何度かやってみた。…でもダメなんだ。
女を集団で襲う奴らが本気で強いわけがない。
本当に強いのは、大事な試合のために
喧嘩なんか絶対やらない。
でも、あたしみたいな経歴の女が
出られる試合はなかったんだ…」

「あんたの試合を観た時は震えが
止まらなかった。"これこそ
あたしが成りたかった人なんだ"
って。あんた、マッドブルを
倒した時も余裕だったろ？」

—— そんな時さ、ワイルドキャッツ
へ誘われたのは…"狂犬みたいな
女がいる"って噂があったらしい」







再戦を望む輝寿華と百合の申し入れを
ピンクパンサーは快諾した。

実は輝寿華の負けっぷりが良いと
ユーザーから高評価が相次ぎ
あのファイトのデータはプレミアが付き
値段が跳ね上がっていた。

もう一度ふたりの闘いが観たい ——

ユーザーの後押しにより
七尾 輝寿華と神乃崎 百合
は再びリングへ
上ることになった。

トレーニングが始まった





痛っ！...
これで軽い
ジャブなんだ
もんなあ。
こっちの手が
壊れるぜ

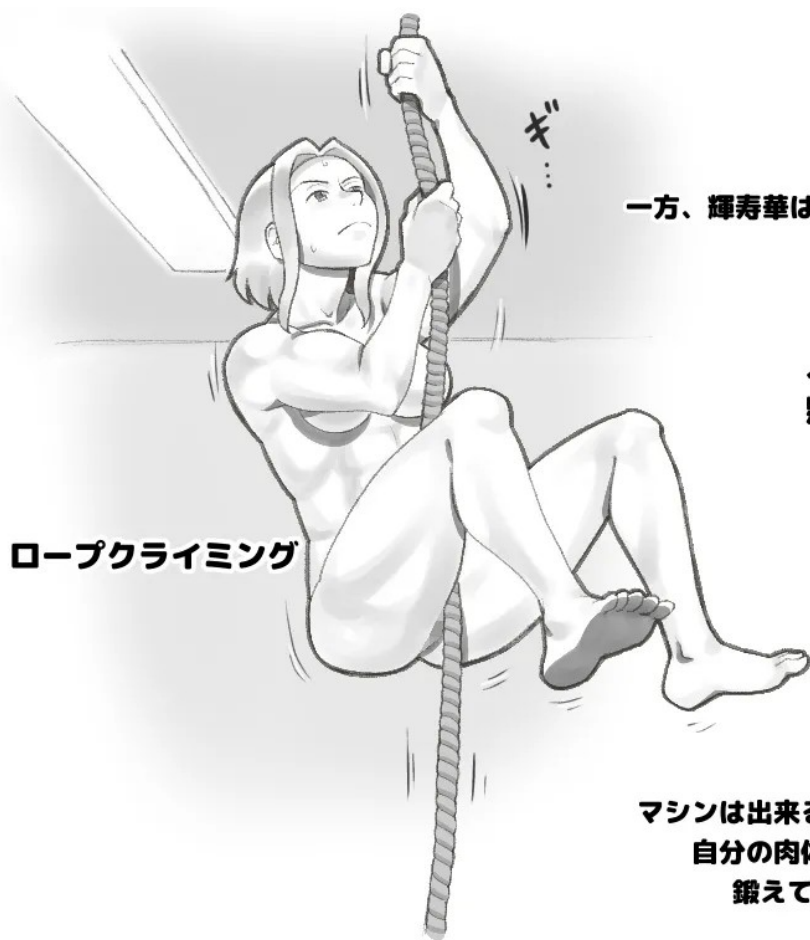


百合は
最新の機材や
トレーニング方法を
熱心に採り入れていた。



媚薬に慣れるため
服用したまま
トレーニングに
励む





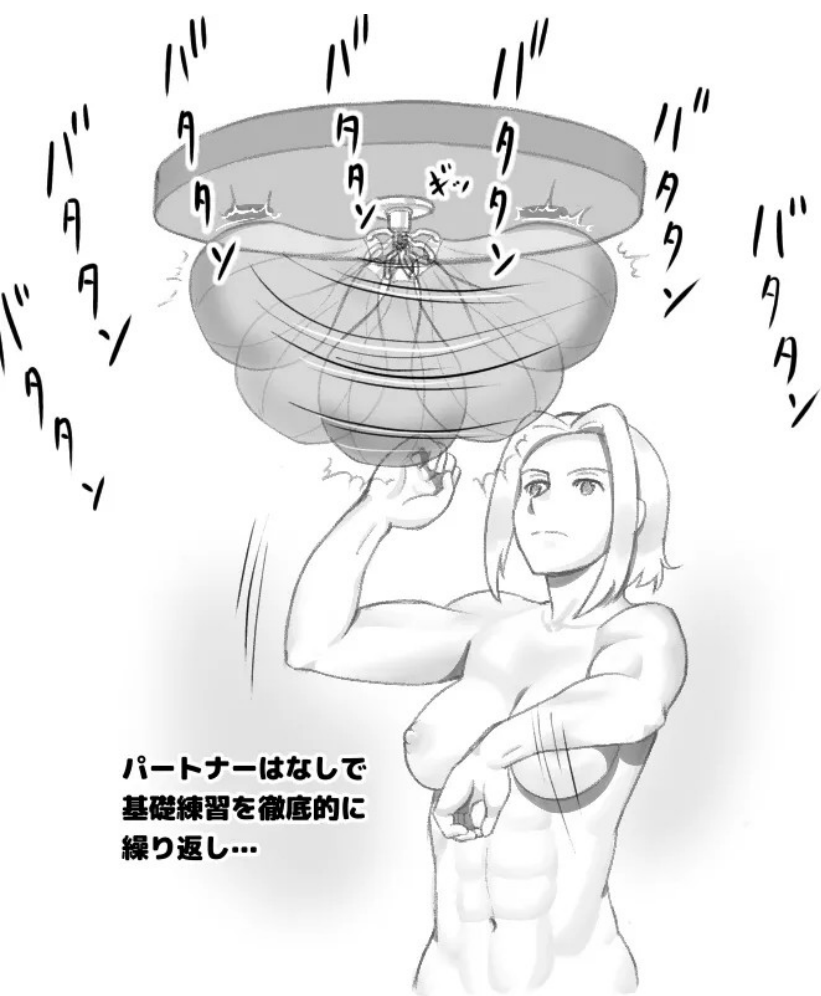
ロープクライミング

一方、輝寿華は——

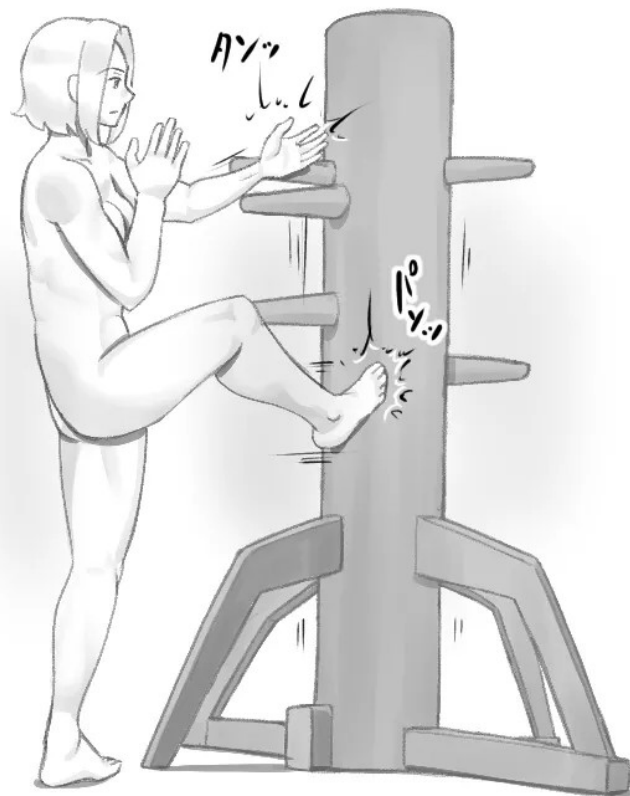
人差し指で
懸垂

マシンは出来るだけ使わず
自分の肉体だけで
鍛えてゆく





総合以外の練習もこなす。
輝寿華は古武術や中国武術も積極的に
取り入れていた。





———最大の難関は
Z媚薬だった。

激しく性感を昂らせる反面
ダメージを軽減するのだが
感じ過ぎては試合にならない。

相手は元AV女優だけあって
快感のコントロールに長けている。

なんとかしてZ媚薬に慣れなければ…

状況を打開したのは
妹の有栖だった。

大好きな姉の苦境に
自ら申し出た
のだ。



わ? ...



す、すごい。
ビクンビクンって
苦しそう...

かわいい...
かも?





急所攻撃の対策も必要であった。



★準備運動

挿入前にじっくりと
妹のヴァギナを愛撫♥
膣口をほぐして
開かせる♥



妹主導でゆっくり挿入...♥
入れられる範囲を
少しずつ深める。

うん...
あ...熱い♥

痛くない?

アリスのマコ
ギュッ♥て
締まる...♥

んん...♥

ズ...
あ♥
ピン♥

グ...
グ...
ズ...
ズ...♥

★騎乗位バックブリッジ

ズッポ♡

ひ♡

ひっ♡

ズッポ♡

ひん♡

ギュッ♡

ゴリッ

ゴリッ

ブルブル

僧帽筋を鍛え
肛門への感覚を増やす

**僧帽筋を鍛え
バランス感覚をやしなう。
同時に挿入の快感に慣れる。**

★挿入シットアップ



...すぐ撃チン♥

——— 性感トレーニングは
困難を極めた。



★親指でプッシュアップ

1セット10回

床にペニスが当たる
ように屈伸する。
筋力アップと同時に
ペニスの刺激に慣れる。



グ
グ

グ



有栖の体重に加え
背中に当たる柔肌の感触と温もりが
力の集中を困難にする。
これに耐えながら10セット行う。

グ

★駅弁スクワット



駅弁スタイルのままスクワット。
ペニスの挿入だけで相方を支える。
これは挿入^{いれ}られる方もキツイ♡
お互いの悦楽に耐えながら
徐々に負荷を掛けてゆく。



下半身とチン力が鍛えられる。
時には射精しながらのエクササイズ
になるのでZ媚薬への耐性が付き
精力と持久力がアップする♡



興奮のあまりその場で
子作り交尾することも…♡

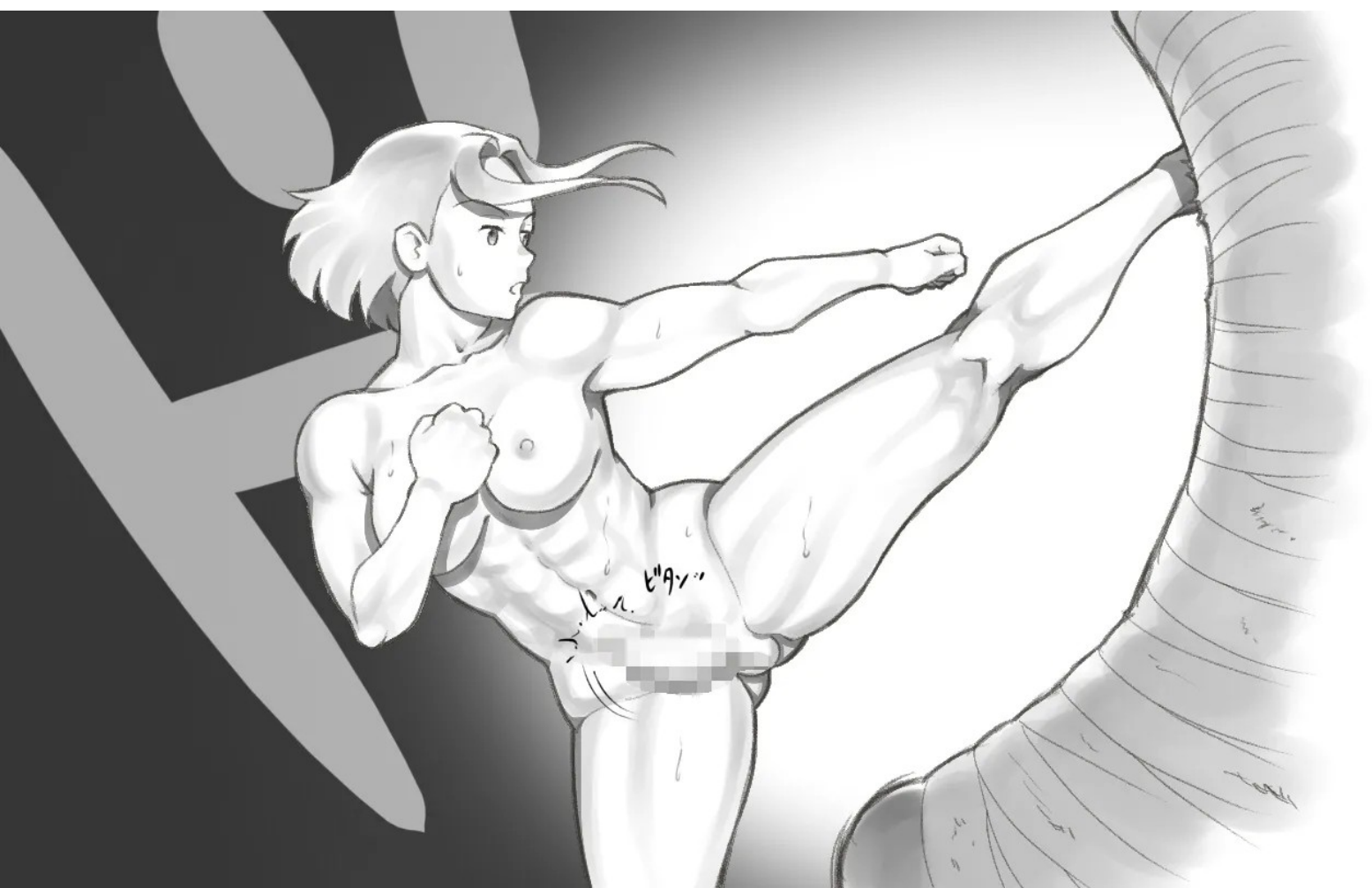
★射精しながらの
ベンチプレス

上半身の筋力と
集中力・精力の
養成

少しでも気を
逸らすと大怪我に
つながる。









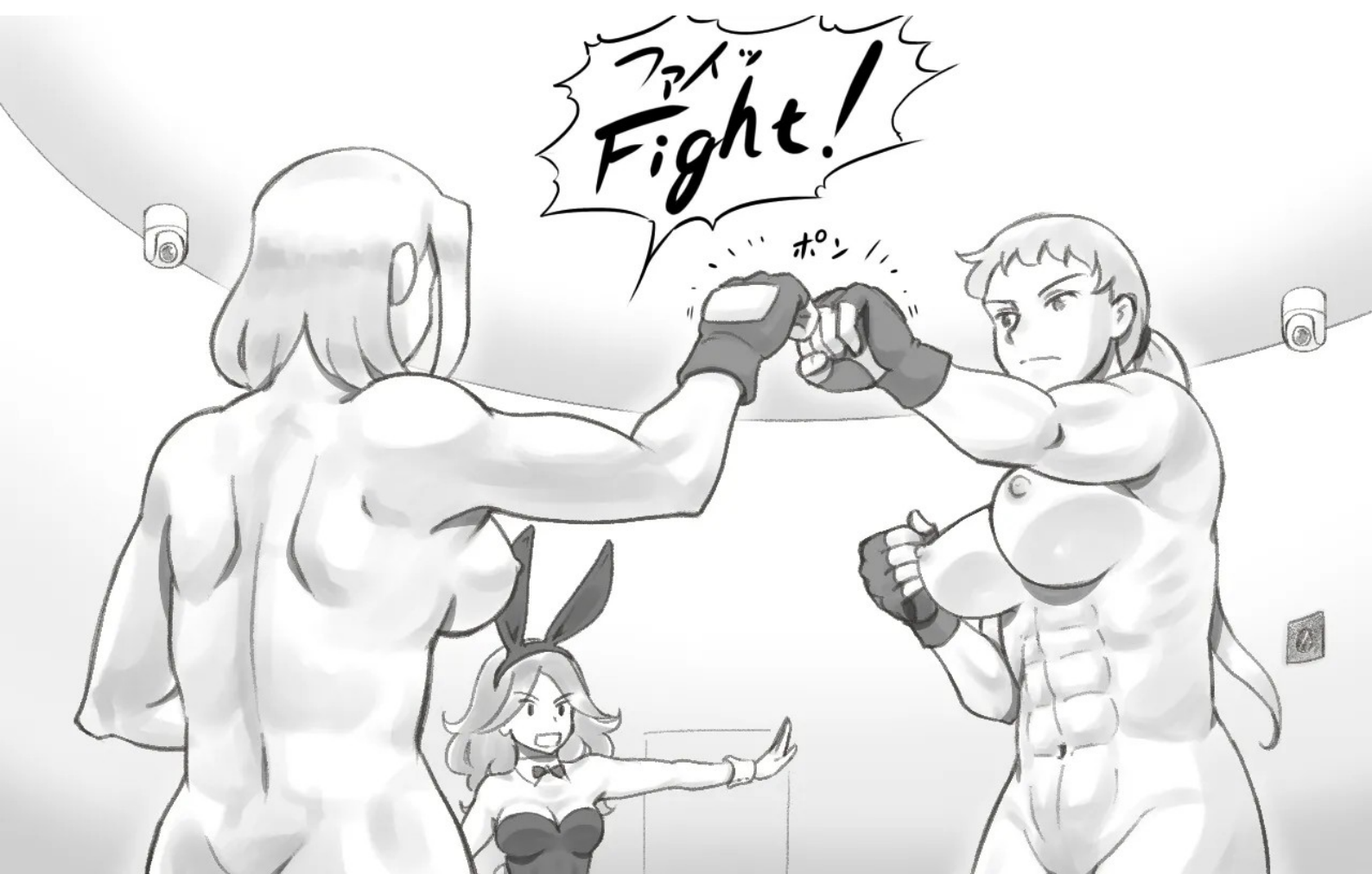
ふたりは再び相まみえた。

輝寿華のリベンジは成るか —————



(なんだ こいつ…
あれだけ醜態を
晒したのに平然
としてる)

(気に入らない
目つきだ…)





ザッ! ゴッ!

ちっ 引っ掛からない...

反撃してくれば
カウンター
決めたのに

ならば
攻めある
のみ

ズッ

ズス...

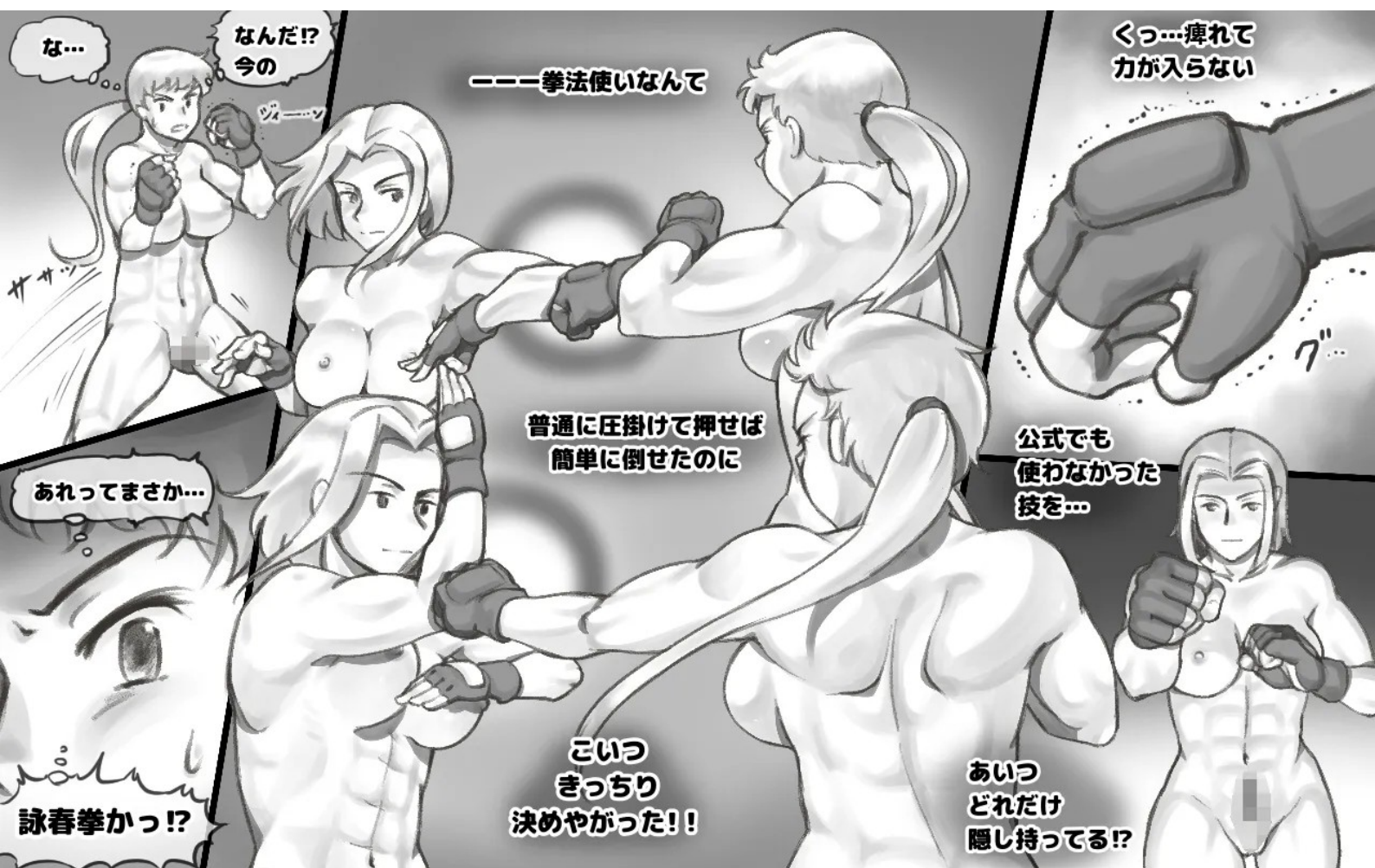
ッ

ッ

ッ...







な...

なんだ!?
今の

———拳法使いなんて

くっ...痺れて
力が入らない

普通に圧掛けて押せば
簡単に倒せたのに

公式でも
使わなかった
技を...

あれってまさか...

こいつ
きっちり
決めやがった!!

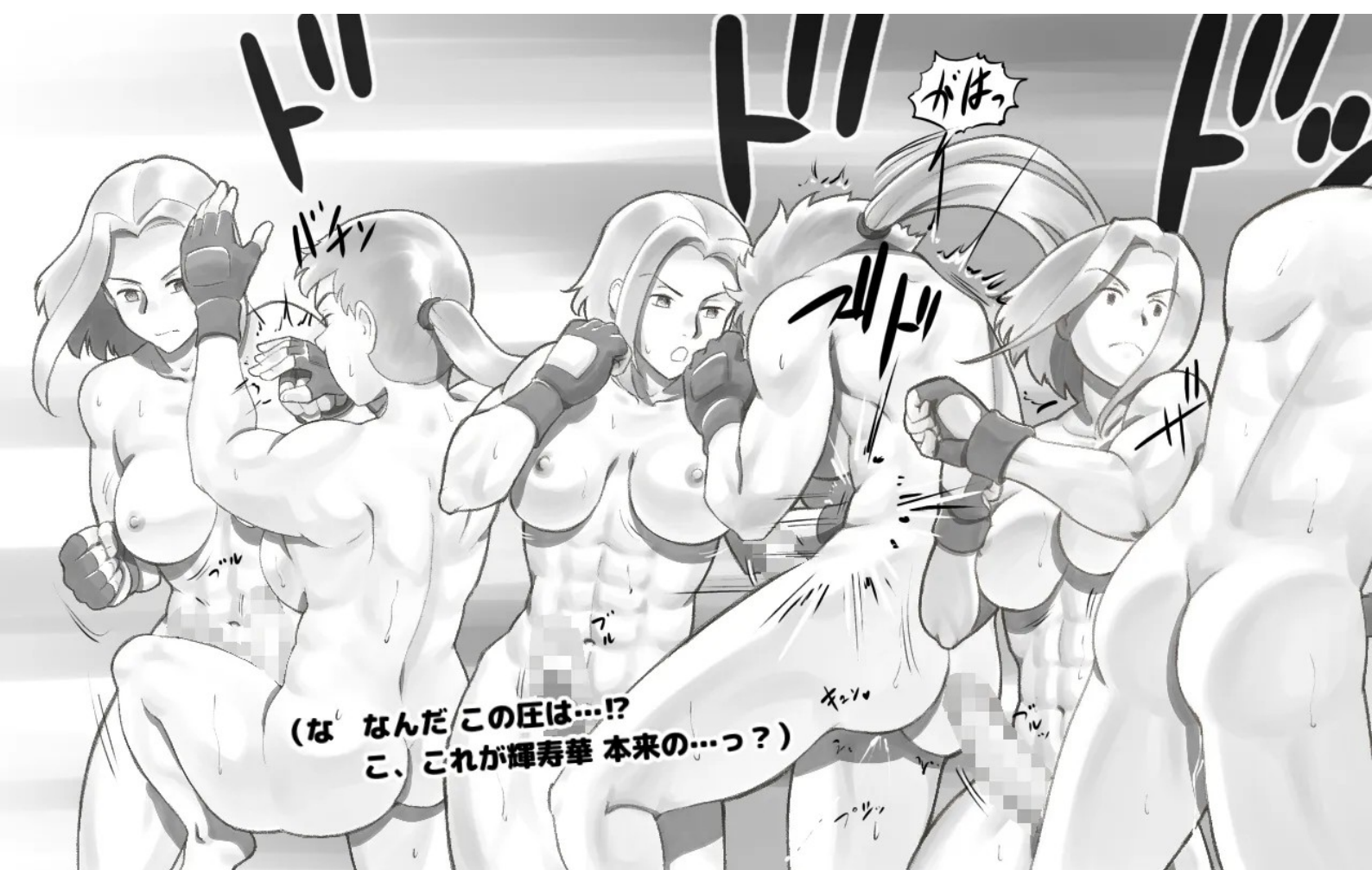
あいつ
どれだけ
隠し持ってる!?

詠春拳かっ!?













——教えてやるよ

あたしがどんな連中と
闘ってきたか

ルールなんて平気で
破る奴らとさ

強い

距離を置いての
打ち合いと
見せ掛け

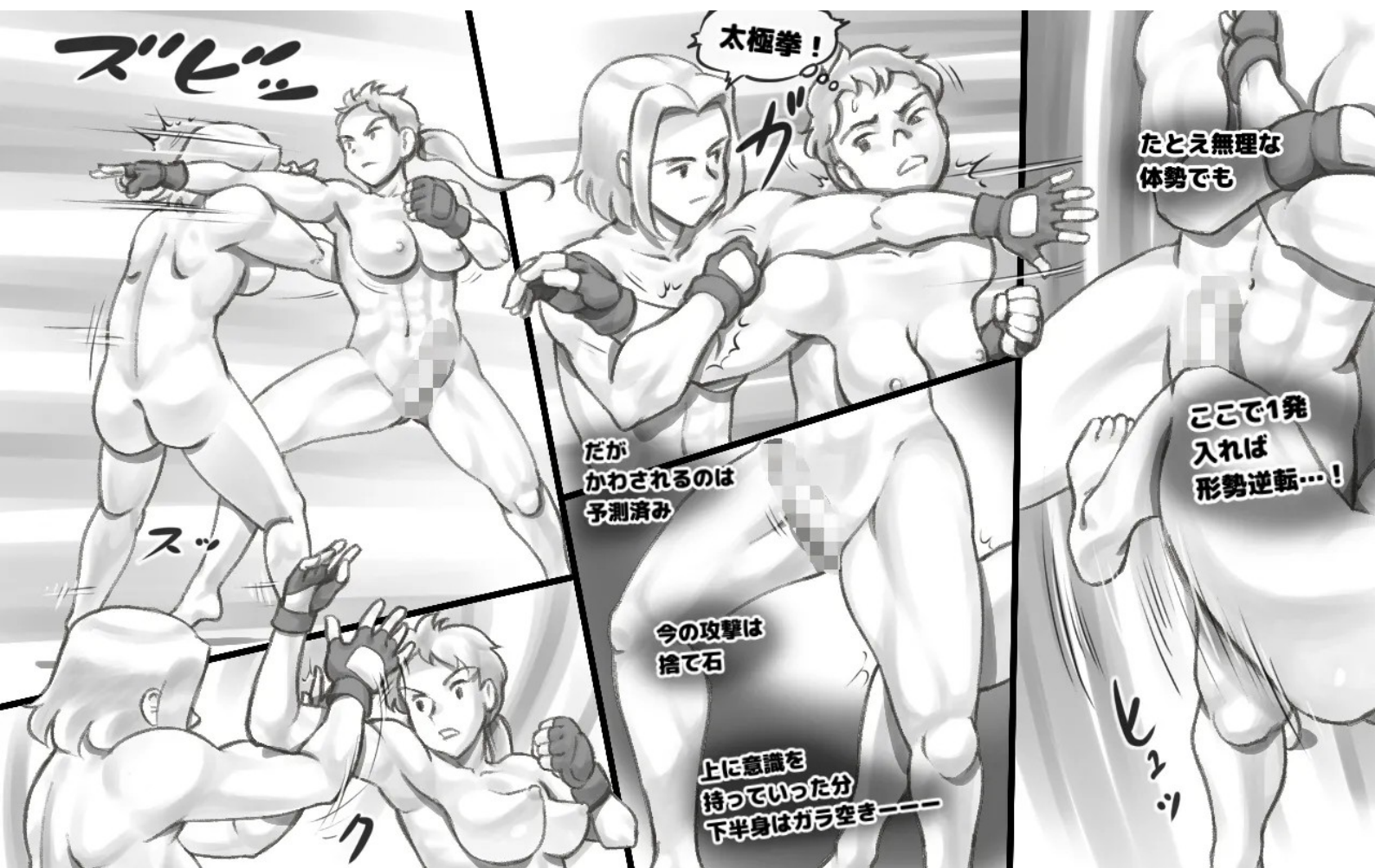
目潰し!!

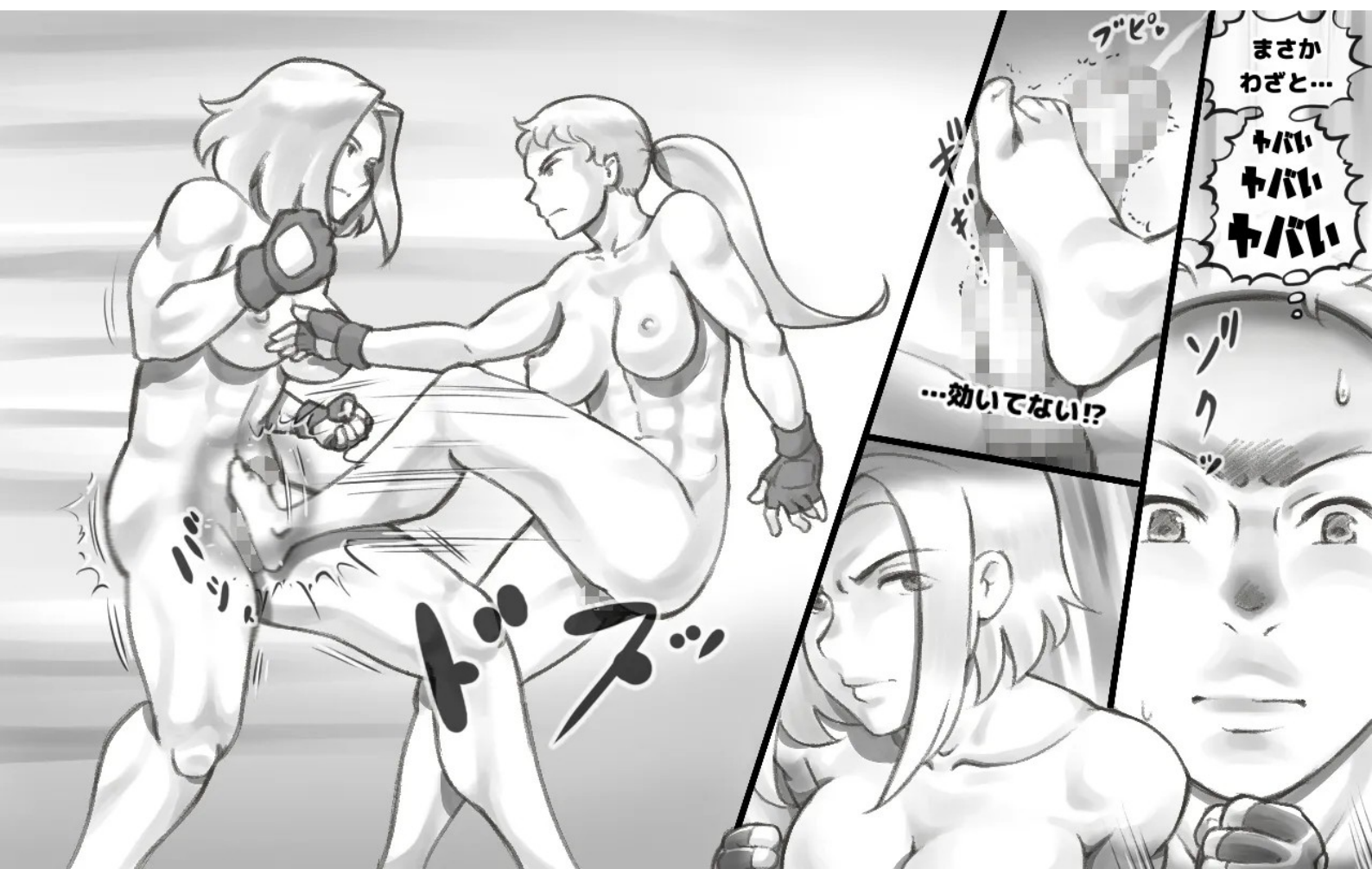
フェイントじゃない本気で突く

最後に立っているのが
勝者なんだ

普通にやったら
勝てないかも
しれない。
けど...

この前とは別人だ
きちんと媚薬対策
もしてる

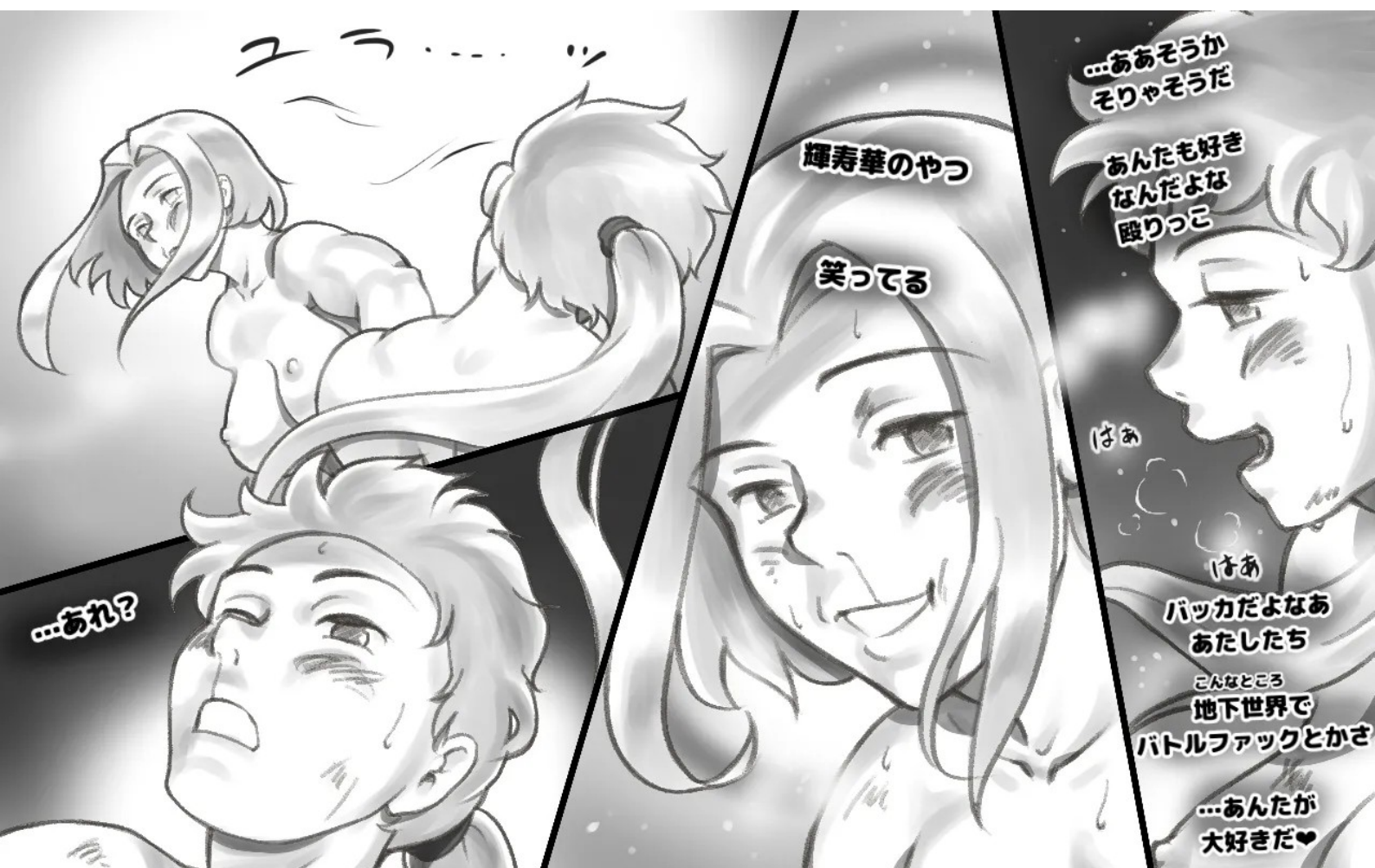












ユラ……ッ

…あれ?

輝寿華のやつ

笑ってる

…ああそうか
そりゃそうだ

あんたも好き
なんだよな
殴りっこ

はあ

はあ

バツカだよなあ
あたしたち

こんなところ
地下世界で
バトルファックとかさ

…あんたが
大好きだ♡

だからこそ

決着をつける

ダッ

ズッ
ズッ
ズッ

パン
ン!!
!!?

反則!?

...いや違う
表の世界じゃそうだが
ここは...

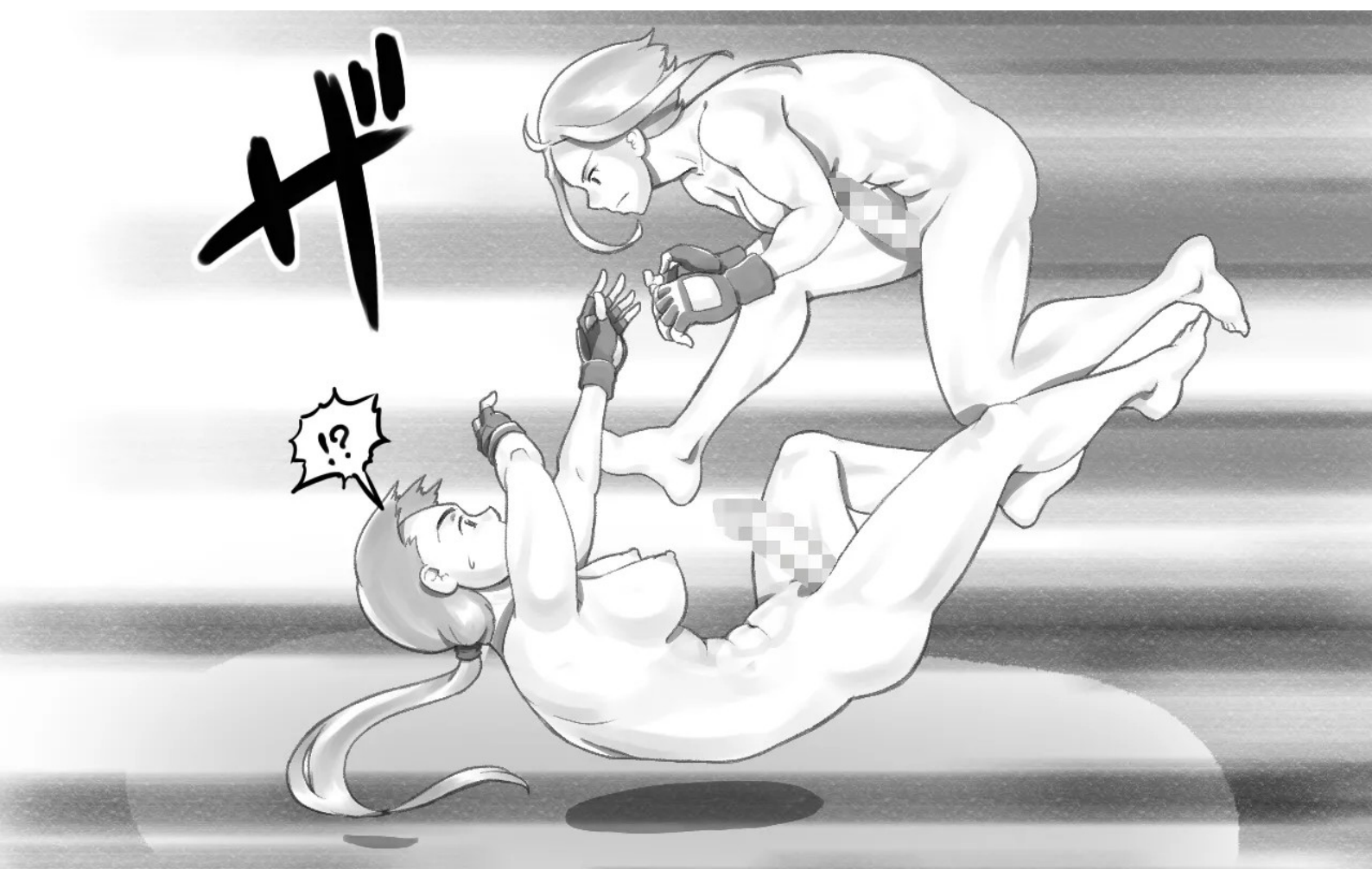
ハッ
ッ

くそっ
三半規管が...

カッ









ガバガバ















輝寿華は延々と犯し続けた。

限りない肉欲の虜になり
欲望の赴くまま
腰を降り続ける…♡

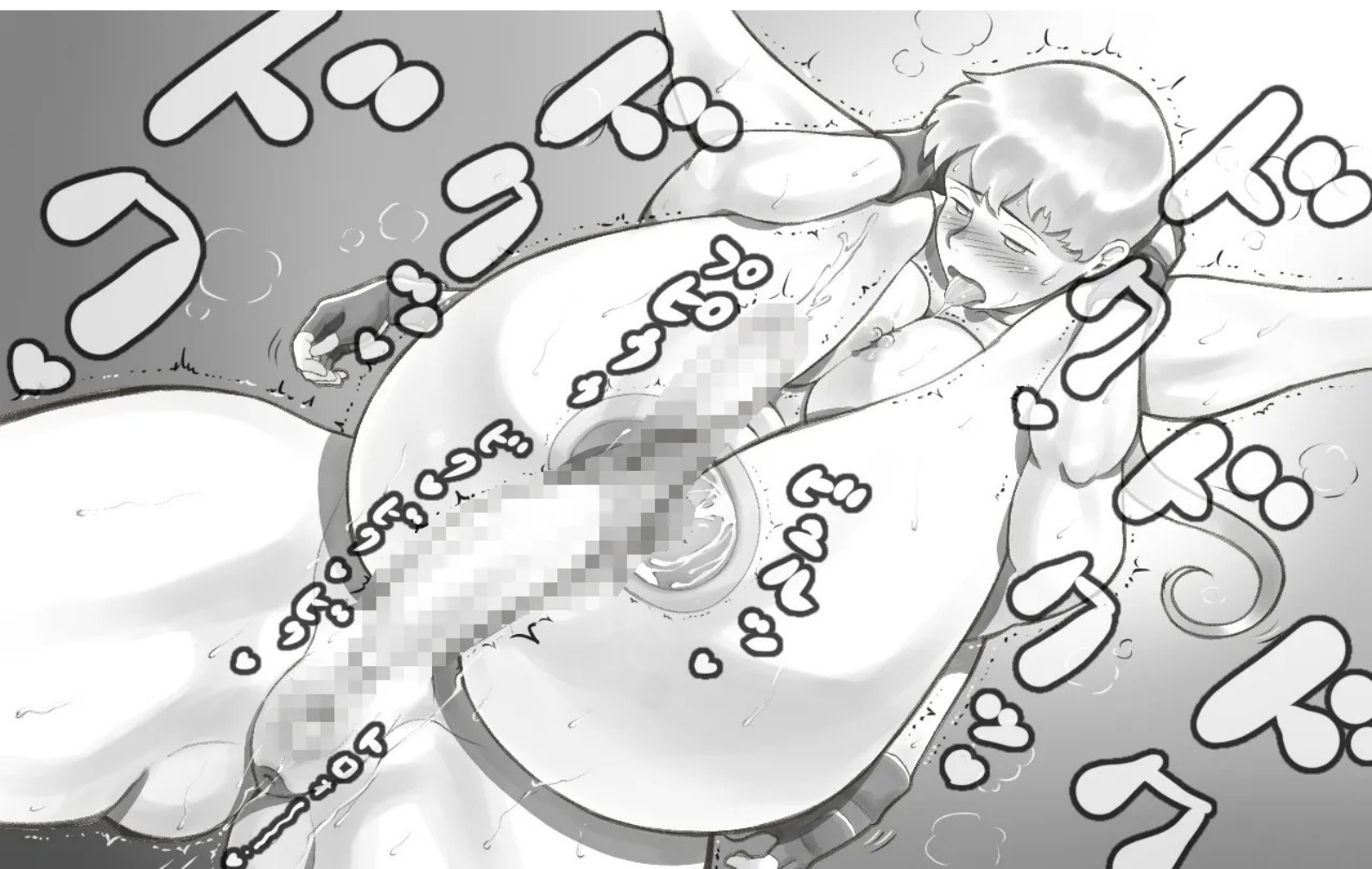
もはや試合の事も忘れ
きつく絞まる膣穴の感触に溺れ
白濁液を注ぎながら
腰を打ちつける♡

一方の百合も、ほとんど意識を失いながらも
輝寿華の抽送に合わせ
無意識に腰を振っていた…♡

まるで妊娠させてとでも
いうように…♡♡♡









「——勝者、七尾 輝寿華選手!!! 神乃崎 百合選手を絶頂ノックアウトッ!」

あのお～、
今夜飲みに
イキませんか？
ふたりで

いや...
妹いるんで。
報告しないと

あ...そ、そう？
じゃ また今度

はあ～♡
あたしも
あんな遅しいのに
ガンガン突かれて
みたいわあ♡

ビクンッ♡

ビクンッ♡

ビク

トオ

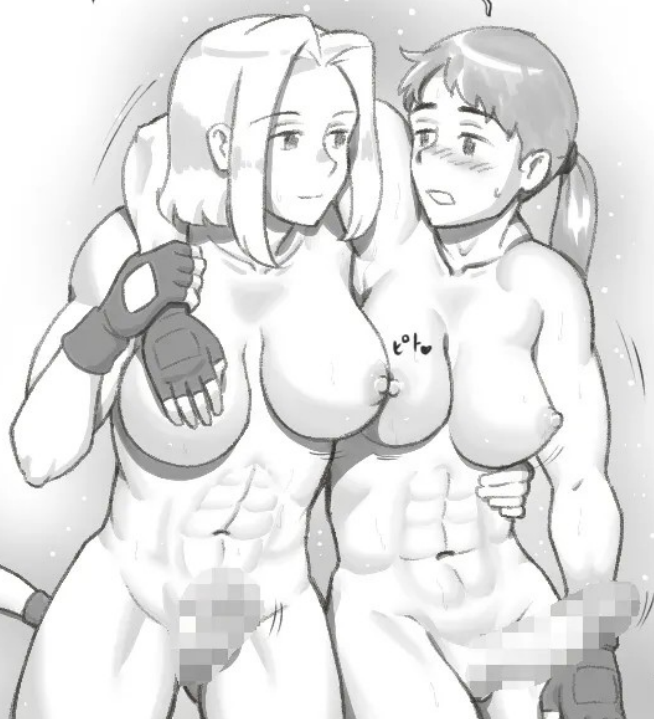


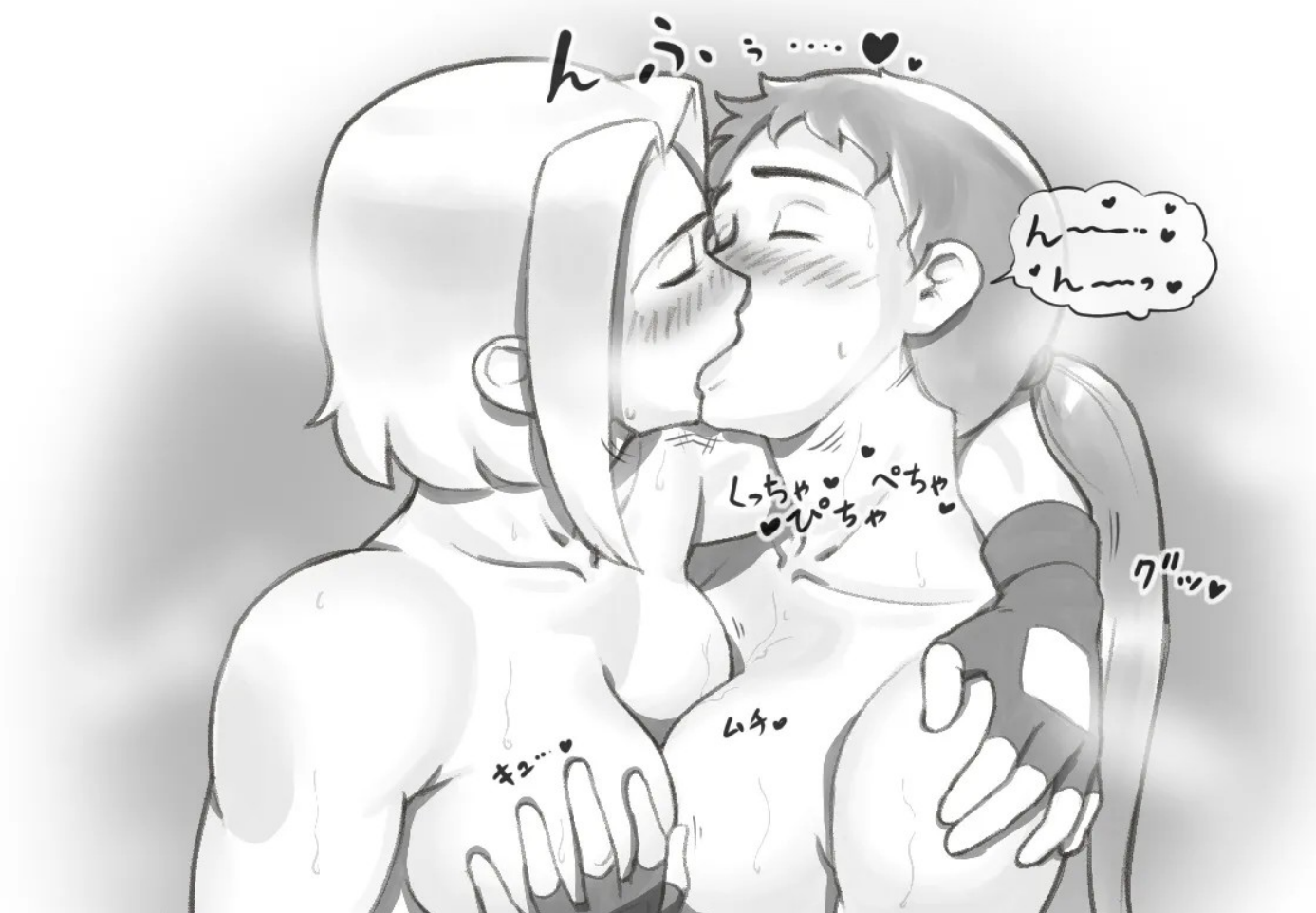


ㄱ

ㄱ... ..

ㄴ...?









輝寿華と百合のファイトは
前以上の評判になり
初回から10倍の値が付いた。

かくして その筋では
ふたりの噂が囁かれている。
"最強の格闘家は地下にいる"
と…

闘いはまだ終わっていない —————

「——いや～、食が進む。
鍋は最高だねえ!!」

「おい… 人^ち家で
なに普通に食って
んだ?」

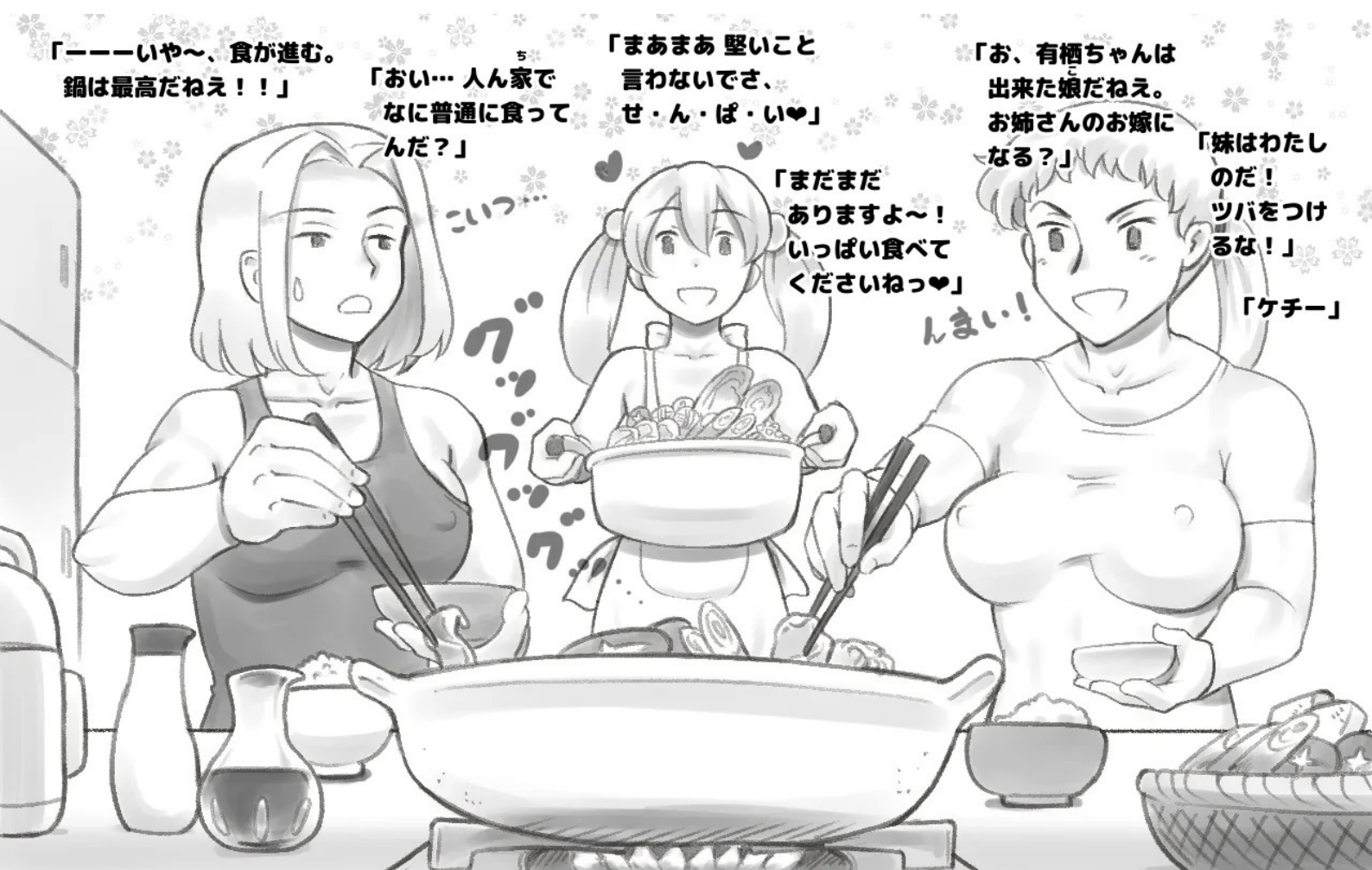
「まあまあ 堅いこと
言わないでさ、
せ・ん・ぱ・い♥」

「まだまだ
ありますよ～!
いっぱい食べて
くださいねっ♥」

「お、有栖ちゃんは
出来た娘だねえ。
お姉さんのお嫁に
なる?」

「妹はわたし
のだ!
ツバをつけ
るな!」

「ケチー」



「...有栖、
苦しくないか？
わたしたちの
チンポ美味しい？」
「んふ♡ んっんっ♡
（コクコク♡）」



「か、かわいいな、
あんたの妹さん...♡
やっぱり
あたしと
（結婚しよっか、
アリスちゃん？」
「ダメって
ゆったろ。
有栖は
わたしの嫁！」

♡Fin♡

★あとかき★

なんだかんで
愛し合う3人♥
このち3人が3人とも
妊娠したといふ♥
さて父親(♀)は誰…?

どうも こんにちは、みずいろめがねです。
今回のキャットファイトはいかが
だったでしょうか…?

もともとアクションや冒険ファンタジー物を
目指していたつもりですが、何の因果か
この道へ踏み外して(?)おります(笑)。

今までアクションをきちんと描いたことが
なかった(バイオパニックとかチラッとあり
ましたが)のと、『百合異説白雪姫』で
ちょっと描いてみたら面白かったので
もっとやってみたい…と思ひまして。

一応エロですので、その縛りの中でやると
決めましたが、アクションよりむしろエロの
方がシンドかったです(汗。なんとか聞っ
ているように見えたらしいのですが。

描いてて分かったのは、試合も喧嘩も
した事のない自分では一番大事な「闘
う感覚」がまったく分からないので、リアル
ファイトは無理だということ。なので
今後は格ゲーのような荒唐無稽な方がいい
かなあとか妄想していますです。

最近歳を取ったせいか怒りっぽくなっ
てきたので、ココロのデトックスも兼ねて
アクションを描けたらいいなあ。

ではでは、駄文はこれにて♥